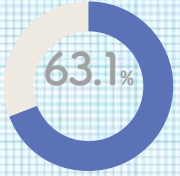
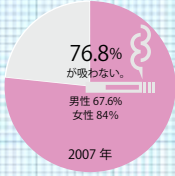
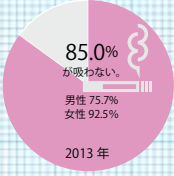
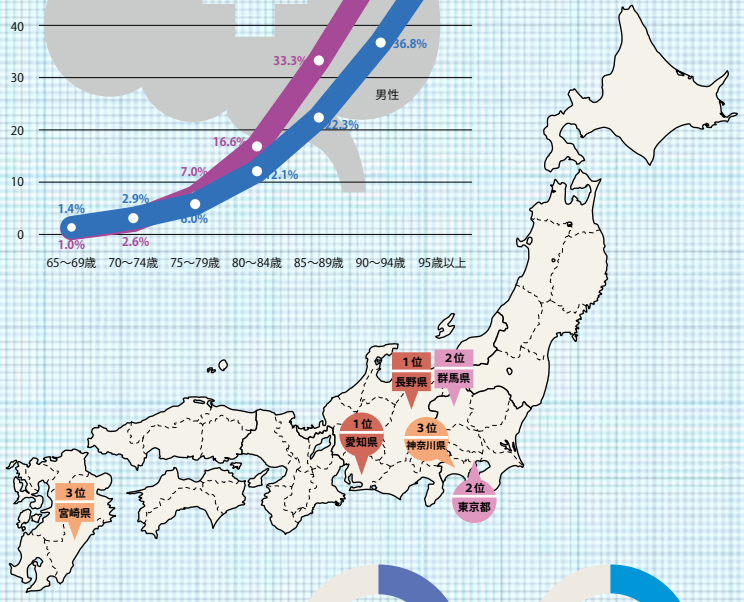
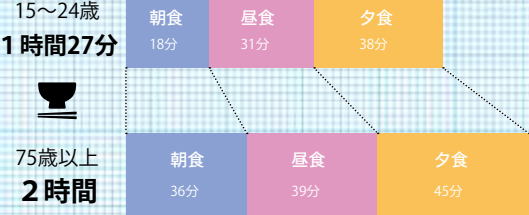
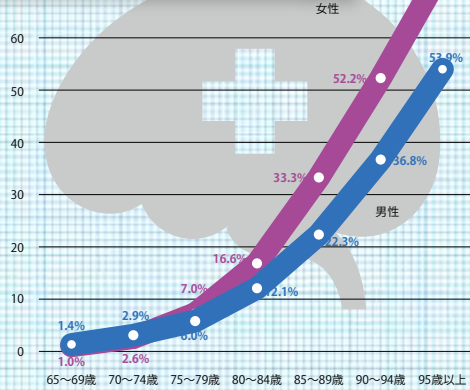
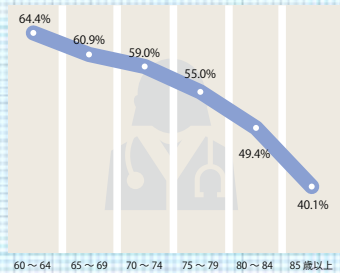
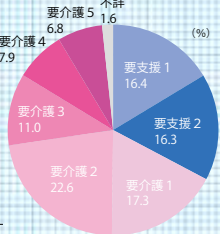


データにみる
リアル

われら ニッポンの 75歳



ILC-Japan

国際長寿センター日本

ILC-Japan は、プロダクティブ・エイジングの理念のもと、

生涯現役で積極的に社会と関わりを持ち、尊厳をもって地域で暮らし続け、

納得した最期を迎えられることを目指して、国際的、学際的な活動を行っています。

ILCグローバル・アライアンス（ILC-Global Alliance=ILC-GA）加盟 17 カ国のメンバーとして、

国連や WHO をはじめ他の国際機関などとも連携しながら、

国際的なネットワークを活用した調査・研究、広報・啓発、情報交換・人的交流事業などを通じて、

上記目的遂行のための長寿リテラシーの普及・啓発活動に取り組んでいます。

ILC-GA は国連の経済社会理事会に属する非政府組織（NGO）委員会のメンバーに認定されています。



ILC-GA 各国の高齢化率

アメリカ	日本	イギリス	フランス	ドイツ	オランダ	カナダ	チェコ	中国
14.8%	26.3%	17.8%	19.1%	21.2%	18.2%	16.1%	18.1%	9.6%

はじめに

男女ともに平均寿命が80歳を超えた今、人生は90年、100年時代とも言われるようになりました。私たち日本人は「長い老後を生きる」という、人類史上初めての経験をしています。

その一方で、高齢者個人の健康状態や暮らし、あるいは地域の様子、ひいては日本の国全体がどのような姿になるかについては、実はまだ具体的・現実的なイメージを持つことができていません。

そこで1つの手がかりとして、21世紀の今を生きる「日本の75歳の姿」を知るために、さまざまなデータを基にしながら、その全体像に迫ってみることにしました。最新データの調査時点である2015年に75歳を迎えた方々（1940年生まれ）をモデルとして、本書を構成いたしました。まさに、日本の高度経済成長を担ってこられた世代の方々です。

第1章は、その方々の人生をできるだけリアリティをもって考えていただくために、1940年の誕生からライフヒストリーに沿った形で当時の世相を紹介し、それぞれの年代に合わせたデータを現在と比較させてみました。

中心となる第2章では、75歳の方々の日常生活、経済状態、健康状態がどのようなものかをさまざまな角度から示してあります。

要介護や認知症など健康状態が変化したときにはどのような暮らしになるかについてのデータも入れてみました。

第3章は、国際比較調査を紹介しました。国ごとの違いや、あるいは国を超えての共通点など、興味深いものがあります。

私たちが長生きできるようになったことは、とりまなおさず日本という国の平和と繁栄の証であることは、言うまでもありません。100年前のご先祖様の倍以上も長生きできるようになったことには、素直に感謝したいところです。

それと同時に「長い老後」という未知の世界を良く生き抜くためには、まず「古い」を知り、そして自分の老いと真摯に向き合うことが出発点ではないかと考えます。

そのために、この冊子が少しでもお役に立てますことを願っております。

1章 75歳のプロフィール

75歳。こんな時代を生きてきた！	6
75歳の足跡—0歳のころ[1940年]	8
小学校入学のころ[1947年]	10
成人式のころ[1960年]	12
不惑のころ[1980年]	14
還暦のころ[2000年]	16
75歳のころ[2015年]	18
1940年生まれの著名人	18

2章 75歳の暮らしぶり

お金

世帯のフトコロ具合は？	20
-------------	----

1か月の家計の収入と支出／貯蓄の額／借入の額／家を持っている割合
〈コラム〉貯蓄は何のため？

暮らし
と
健康

どんな毎日を送っているのだろう。	22
------------------	----

起きる時間・寝る時間と食事の時間／1日の行動時間／食事にかかる時間
75歳以上と15～24歳の食事にかかる時間の比較／行っている活動
75歳以上のドライバーの分布／おしゃれへの関心度／日常生活の主な情報源
欲しい日常生活の情報ベスト3／〈コラム〉まだまだ現役！
現在の収入階層別に見た「働けるうちはいつまでも」働きたい人の比率
主観的健康感／日常生活満足度／自分の歯が20本以上ある人の割合
病気の有無と通院状況／煙草を吸うか／お酒を飲むか／健康診断等を受けた人の割合
体の具合が悪いという自覚症状の有無／低栄養傾向[BMI20以下]の高齢者の割合
介護保険受給者の人数と割合

病気
と
終末

どのような最期を迎えるのだろうか。…………… 30

体の不具合のうち、もっとも気になる症状トップ5
男女別疾病別にみた患者の数と割合トップ10／1人当たりの医療費／主な死因
主な死因別にみた死亡場所／主な不慮の事故の種類別にみた死亡率
自殺者数の推移／年齢別自殺死亡者数／交通事故死亡者数
状態別交通事故死亡者数／〈コラム〉高齢者の交通事故と運転免許

介護

介護を巡る現状はどうだろうか。…………… 34

介護が必要な人の割合／介護が必要な人の介護度の状況
介護が必要となった主な原因／介護が必要な人の1年間の介護度の変化
介護保険サービスを利用しない理由／介護費用の負担
介護が必要な人(本人)の悩みやストレス／認知症有病率
〈コラム〉認知症のいろいろな原因／認知症高齢者数の将来推計
介護をする人の続柄と健康状態

3章 75歳の国際比較

家庭

世界と比べて日本の高齢者の家族や住宅の状況は？…………… 40

婚姻状態／家族との同居状況／子や孫との付き合い方／住宅の種類
住宅の問題点ワースト3

暮らし

お金や人付き合いはどうだろうか？…………… 42

暮らしに困ることの有無／老後の備えとしての現在の貯蓄・資産の充足度
生活の主な収入源／近所の人たちとの付き合い方／親しい友人の有無
同居の家族以外に頼れる人／ボランティア活動への参加状況
ボランティア活動に参加しない理由トップ3／悩みやストレスの有無
生きがいと感じるときベスト3／生活の総合満足度

健康

健康に対する意識の違いは？…………… 46

現在の健康状態／健康のために地域の活動に参加する人の割合
身体機能が低下した場合、どこに住みたいか／〈コラム〉4か国の医療制度の比較

監修者プロフィール…………… 48

※「無回答」「特になし」「その他」などの選択肢は、掲載していないものもあります。

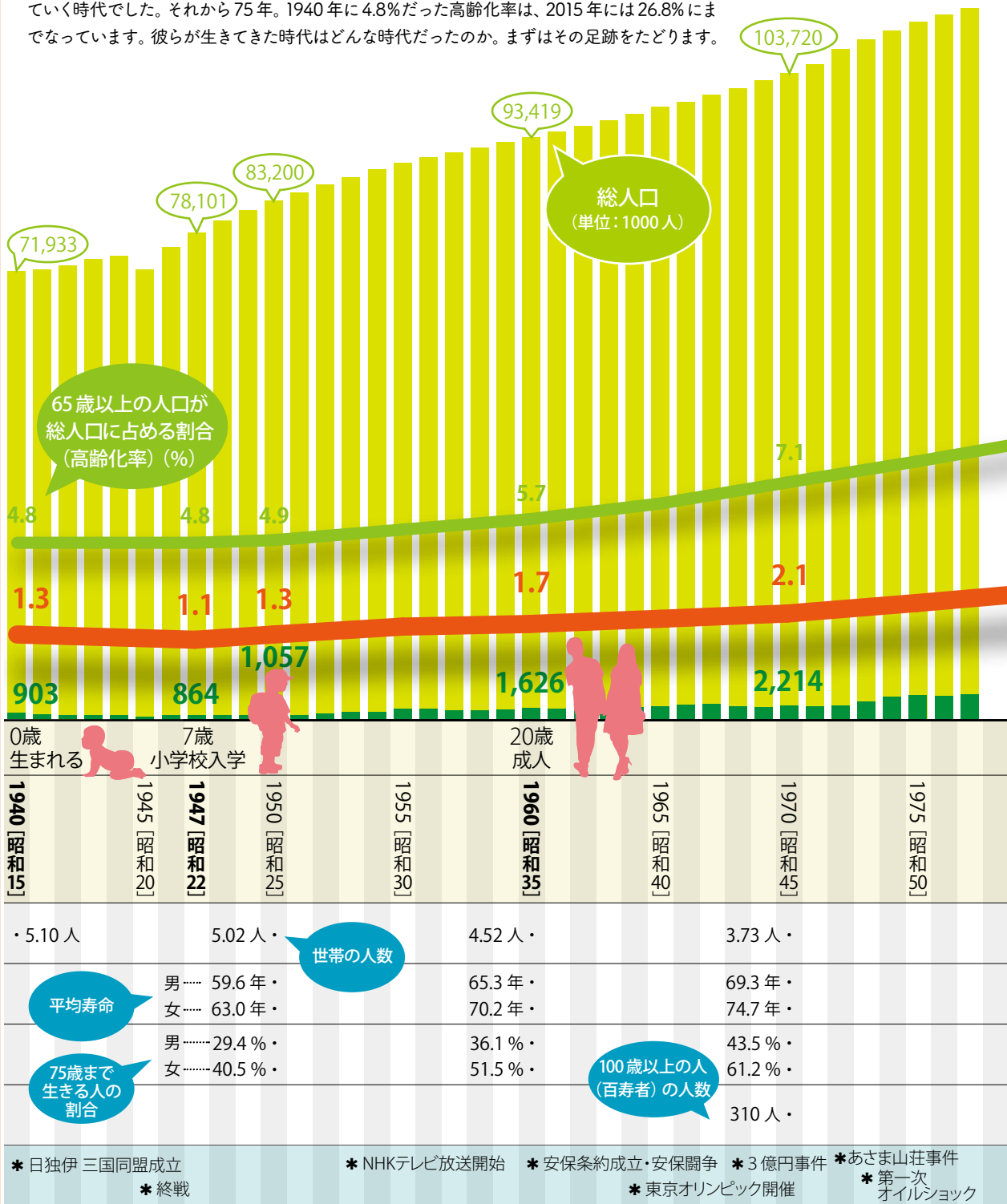
Age
75

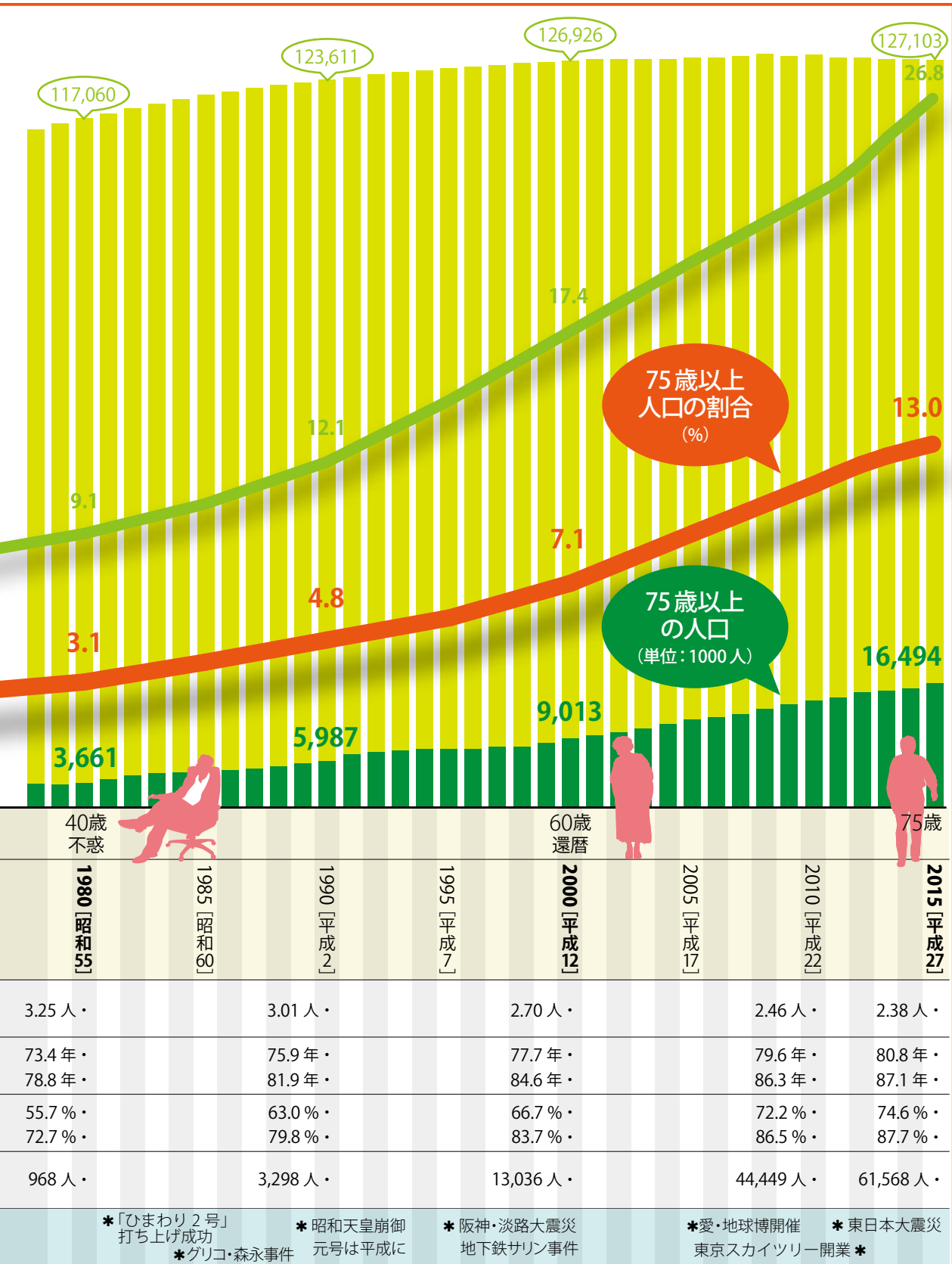
1章

75歳のプロフィール

75歳。こんな時代を生きてきた!

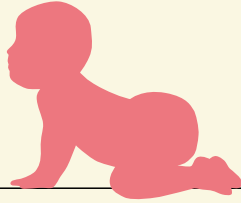
2015年に75歳を迎えた人が生まれたのは1940年、昭和15年です。1940年といえば前年に第二次世界大戦が開戦し、9月に日独伊三国同盟が締結されるなど、急速に戦時色の濃くなっていく時代でした。それから75年。1940年に4.8%だった高齢化率は、2015年には26.8%にまでなっています。彼らが生きてきた時代はどんな時代だったのか。まずはその足跡をたどります。





75歳の足跡—0歳のころ

1940年
[昭和15]



基礎データ

人口	7,193万3,000人
高齢化率	4.8%
75歳以上人口の割合	1.3%
平均寿命	男：46.9年 女：49.6年

女性が一生の間に 生む子どもの数

出典：厚生労働省「平成27年人口動態統計」合計特殊出生率
合計特殊出生率は、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものの。1人の女性とその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

1940年

4.11人



2015年

1.46人



1つの世帯に 住んでいる人数

出典：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2016」世帯の種類別平均世帯人員

1940年

5.10人



2015年

2.28人

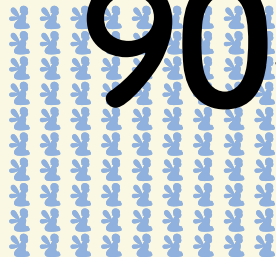


生まれた子ども 1,000人のうち 1歳までに死亡する 人数

出典：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2016」乳児死亡率

1940年

[1,000人の内]
90人



2015年

2.1人 [1,000人の内]



0歳の1940年はこんな年

Japan [国内]

- ★9月、日独伊三国同盟が締結された。英仏米との関係が悪化し、急速に戦時色が濃くなって行く。
- ★国民の戦時意識を高めるために、近衛文麿らが始めた「新体制運動」の流れを背景に、諸政党・政治団体は自ら解党を余儀なくされ、労働組合の解散も進んだ。
- ★米や味噌・醤油・砂糖など、食料品・日用品の切符制による配給体制がととのい、内務省による部

落会、町内会の組織化が進んだ。

- ★10月、戦争への参加意識を強力に統制・推進する「大政翼賛会」が生まれた。
- ★この年、日本の総人口は1億552万人（そのうち、内地*人口は約7,200万人だった）。

*「内地」とは、当時の行政上、日本本土(本国)とされた地域のこと。

World [世界]

- ★前年9月、ドイツ軍がポーランドに侵攻して第二次世界大戦が始まった。ドイツ軍はデンマーク、オランダ、ベルギーを席卷し、フランスに迫る。
- ★前年5月には、関東軍がソ連軍と衝突して敗北を喫したノモンハン事件が起こる。
- ★3月、汪兆銘による日本の傀儡政権である中華民国南京国民政府が樹立された。
- ★6月、パリ陥落。フランスがドイツに降伏。

- ★9月、バルト三国（エストニア、ラトヴィア、リトアニア）がソヴィエト連邦に編入された。

- ★ドイツによるロンドン空襲も始まり、ヨーロッパ全土が戦火に包まれる。

Culture / Trend [文化]

- ★津田左右吉の著書『神代史の研究』などが発禁処分を受け、津田は早稲田大学教授の職を辞した。
- ★初めての正倉院展が行われ、正倉院御物が一般に公開された。
- ★この年、紀元2600年の記念イベントとして東京オリンピックを開催予定だったが、1937年に始まった日中戦争が長期化するなか、1938年に返上している。
- ★「ぜいたくは敵だ!」という戦時標語の看板が、東京都内のいたるところに立てられた。1字挿入して「ぜいたくは素敵だ!」などのいたずらも。
- ★「愛国コドモカルタ」登場。

本:『三国志』(吉川英治)、『夫婦善哉』(織田作之助)、『わが闘争』(アドルフ・ヒトラー)

映画:『支那の夜』(邦画)、『哀愁』『チャップリンの独裁者』(洋画)

流行歌:『湖畔の宿』(高峰三枝子)、『誰か故郷を想わざる』(霧島昇)、『暁に祈る』(伊藤久男)、『燦めく星座』(灰田勝彦)

小学校入学のころ

1947年
[昭和22]



基礎データ

人口	7,810万1,000人
高齢化率	4.8%
75歳以上人口の割合	1.1%
平均寿命	男:50.1年 女:54.0年

同級生の人数 (10歳時)

出典：総務省統計局「国勢調査」

1950年

180万6,000人



2015年

105万5,000人



身体測定の結果 (身長・体重) (8歳時)

出典：文部科学省「学校衛生統計調査」「学校保健統計調査」

1948年

身長

男 117.4cm
女 116.4cm

体重

男 22.0kg
女 21.3kg

2015年

身長

男128.1cm
女127.3cm

体重

男26.9kg
女26.4kg

7歳の1947年はこんな年

Japan [国内]

- ★終戦から2年経ち、連合国占領下、教育基本法・独占禁止法・地方自治法・国家公務員法などが次々に公布施行され、国民の権利意識も一挙に高まった。
- ★しかし一方では、2月、労働者による2・1スト（ゼネスト）が、GHQマッカーサー司令官の指令で中止となるできごともあった。
- ★4月、第23回総選挙。日本社会党が第1党を占

め、同党を軸とする片山哲連立内閣が成立した。社会党 143、自由党 131、民主党 124、国民協同党 31、共産党 4。

- ★同月、第1回参議院選挙も実施され。ここでも社会党が47名当選を果たし第1党を占めた。
- ★5月3日、**日本国憲法**が施行される。
- ★12月に公布された改正民法で、「家」制度が廃止されることになった。

World [世界]

- ★第二次世界大戦の終結から2年めで早くも2つの大国アメリカとソ連の対立が露わになり、戦後長く続くことになる「自由主義」と「共産主義」の対立構造が生まれた。
- ★一方で、東南アジア諸国は、西欧による植民地支配からの脱却を目指す運動と闘争を、開始した。
- ★3月、トルーマン・ドクトリン（反共軍事援助）発表。
- ★6月、マーシャル・プラン（ヨーロッパの復興援

助のための計画）発表。

- ★8月、インドとパキスタンが分離独立した。
- ★9月、ソ連主導によるコミンフォルム（共産党及び労働者党情報局）結成。

Culture / Trend [文化]

- ★2月、日本ペンクラブが再出発した。
- ★4月、新しい「学制」（6・3制）始まる。
- ★同月、GHQによって禁演とされていた『忠臣蔵』に上演許可が下りた。
- ★8月、古橋広之進が水泳の日本選手権 400 m 自由形で世界記録を打ち立てるも、日本は当時世界水連から除名されていたため、公式記録とは認められなかった。
- ★9月、カスリーン台風による被害は関東・東北などで大きなものとなり、死者行方不明者 1529 名。
- ★11月、赤い羽根共同募金始まる。

本：『凱旋門』（レマルク著・井上勇訳）、『愛情はふる星のごとく』（尾崎秀実の書簡集）、『人生論ノート』（三木清）

映画：『今ひとたびの』、『安城家の舞踏会』（邦画）、『紳士協定』『断崖』（洋画）

流行歌：『星の流れに』（菊池章子）、『啼くな小鳩よ』（岡晴夫）、『東京ブギウギ』（笠置シズ子）



成人式のころ

1960年
[昭和35]



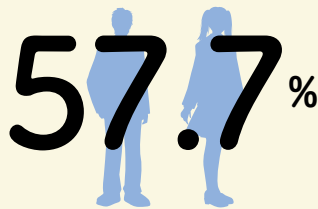
基礎データ

人口	9,341万9,000人
高齢化率	5.7%
75歳以上人口の割合	1.7%
平均寿命	男:65.3年 女:70.2年

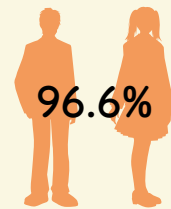
高校進学率

出典：文部科学省「学校基本調査」

1960年



2015年



大学進学率 (短大含む)

出典：文部科学省「学校基本調査」

1960年



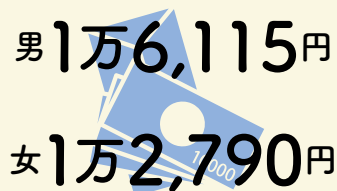
2015年



大卒平均初任給

出典：展望社『物価の文化史事典』、厚生労働省「平成27年賃金構造基本統計調査」

1960年



2015年



平均初婚年齢・有配偶率(20~29歳)

出典：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2016」、総務省統計局「国勢調査」

1960年



2014年



20歳の1960年はこんな年

Japan [国内]

- ★ 1960年は「安保」の年である。日米安全保障条約の改定をめぐる、激しい反対運動が起こった。5月、岸信介政権下の自民党が新安全保障条約を強行採決、学生・労働者らによる国会周辺での大規模なデモが続いた。
- ★ 5月、チリ地震による大津波で三陸海岸を中心に死者行方不明者 142 人の犠牲を出した。
- ★ 6月 19 日、新安全保障条約の自然承認が成立、

岸首相は退陣した。

- ★ 10 月、浅沼稻次郎日本社会党委員長が、講演中右翼の青年に刺殺される。
- ★ 1959～60年、三池争議。エネルギー政策が石炭から石油へと転換する時代に、三池炭坑で行われた合理化に反対する大争議。労働側の敗北が、石炭産業衰退への一里塚となった。

World [世界]

- ★ 1960年は「アフリカの年」と言われる。宗主国からの独立が、フランスからの 13 国をはじめ 17 か国に及んだ。
- ★ 2月、フランスがサハラ砂漠で初めての水爆実験を行う。
- ★ 6月、米アイゼンハワー大統領が、日米新安保条約改定阻止運動激化のため、来日を断念した。
- ★ 同月 30 日、コンゴ共和国がベルギーから独立を

果たしたが、その直後、南部のカタンガ州が分離独立を宣言、いわゆるコンゴ動乱が始まった。

- ★ 11 月、米大統領選挙で、民主党のジョン・F・ケネディが勝利する。
- ★ 12 月、南ベトナムのゴ・ジン・ジエム政権と、それを支援するアメリカへの抗議のため「南ベトナム解放民族戦線」が結成され、ゲリラ・テロ活動が活発化した。

Culture / Trend [文化]

- ★ 西田佐知子の『アカシアの雨がやむとき』が安保闘争参加の学生たちに歌われ大ヒット。
- ★ アメリカからやってきたダンスの「ツイスト」が大流行した。
- ★ 空気で膨らませる人形「ダッコちゃん」が、発売から半年で 240 万個も売り上げた。
- ★ 8月 25 日～9月 11 日、ローマ・オリンピック開催。日本は金メダル 4 個獲得。
- ★ 9月、カラーテレビの本放送が始まった。
- ★ 栃若時代。3月大阪場所では、全勝同士の対決で、若乃花が熱戦のすえ栃錦に勝利した。
- ★ ジャイアント馬場とアントニオ猪木がプロレスデビューした。

本：『性生活の知恵』（謝国権）、『どくとるマンボウ航海記』（北杜夫）、『私は赤ちゃん』（松田道雄）

映画：『名もなく貧しく美しく』、『青春残酷物語』（邦画）、『太陽がいっぱい』、『勝手にしやがれ』、『甘い生活』、『ベンハー』（洋画）

流行歌：『潮来笠』（橋幸夫）、『誰よりも君を愛す』（松尾和子、和田弘とマヒナ・スターズ）、『哀愁波止場』（美空ひばり）、『月の法善寺横丁』（藤島恒夫）、『達者でナ』（三橋美智也）



豆腐の値段
15円

不惑のころ

1980年
[昭和55]



基礎データ

人口	1億1,706万人
高齢化率	9.1%
75歳以上人口の割合	3.1%
平均寿命	男:73.4年 女:78.8年

40代平均年収

出典：国税庁「民間給与実態統計調査」

1980年

2014年

40～44歳
340万6,000円
45～49歳
340万3,000円

40～44歳
456万9,000円
45～49歳
486万9,000円

40代平均貯蓄額 (2人以上の世帯)

出典：総理府統計局「昭和55年貯蓄動向調査」、総務省統計局「平成27年家計調査」

1980年

2015年

40～44歳
496万1,000円
45～49歳
583万円

40～49歳
1,024万円

40代持ち家率

出典：総務省統計局「昭和55年住宅統計調査」、「平成25年住宅・土地統計調査」

1980年

2013年

71.0%

59.6%

40歳の1980年はこんな年

Japan [国内]

- ★5月19日、衆議院解散。初の衆参同時選挙にいたる。この選挙遊説中に、大平正芳首相が心筋梗塞により死去。7月17日、同時選挙に圧勝した自民党は、鈴木善幸を次期総裁に選出、新首相が誕生した。
- ★5月24日、JOCがモスクワ・オリンピックへの不参加を決定した。

- ★9月3日、党内抗争などの末、1951（昭和26）年に中国に密航していた元日本共産党政治局員・伊藤律が中国から帰国した。
- ★1890（明治23）年に初めて議会在招集されてから90年目にあたり、11月29日、国会開設90周年記念の式典が行われた。

World [世界]

- ★アフガニスタン侵攻問題で、アメリカ・西側諸国とソ連の関係が緊張。4月12日、アメリカがモスクワ・オリンピックへの不参加を決め、日本を始めドイツ・中国・パキスタンなどが、それぞれの理由でボイコットを決め、不参加は約50か国にのぼった。
- ★イラン革命が成功し、亡命したパフラヴィー皇帝をアメリカが受け入れたため、反発したイランの学生らが前年11月に米大使館を占拠する事件が起きた。その後4月の米軍による人質救出作戦の失敗などがあり長期化したが、パフラヴィー皇帝の死

- 去や、アメリカ大統領の交代などで、1981年1月に444日ぶりの解決をみた。
- ★5月、韓国の光州市で、軍部に反対する大規模な民衆蜂起事件が発生（光州事件）。
- ★9月22日、イラン革命の混乱に乗じて、イラクが国境を越えて進撃、イラン・イラク戦争始まる。
- ★同日ポーランドで自主労働組合「連帯」が結成される。
- ★11月20日、文化大革命を主導した江青ら「四人組」の裁判が始まった。

Culture / Trend [文化]

- ★7月、日本男性の平均寿命が73.4年と発表され、世界1位となった。
- ★10月15日、東大寺大仏殿の大規模修理が終了し、落慶法要が挙行された。
- ★原宿の歩行者天国で、派手な衣装でディスコダンスを踊る若者達のチームが出現。竹の子族と呼ばれた。
- ★前後にはない規模で「校内暴力」が荒れ狂い、卒業式に制服警官が何十人も張りついた中学校が多数あった。

本:『蒼い時』（山口百恵）、『ノストラダムスの大予言』（五島勉）、『ツービートのわっ毒ガスだ』（ツービート）、『項羽と劉邦』（司馬遼太郎）

- 漫画・アニメ:『めぞん一刻』（高橋留美子）、『Dr.スランプ』（鳥山明）、『釣りキチ三平』（矢口高雄）
- 映画:『影武者』、『復活の日』、『男はつらいよシリーズ』（邦画）、『スター・ウォーズ 帝国の逆襲』（洋画）
- 流行歌:『ダンシング・オールナイト』（もんた&ブラザーズ）、『青い珊瑚礁』（松田聖子）、『雨の慕情』（八代亜紀）、『昴』（谷村新司）
- その他:ルービックキューブ大流行



還暦のころ

2000年
[平成12]

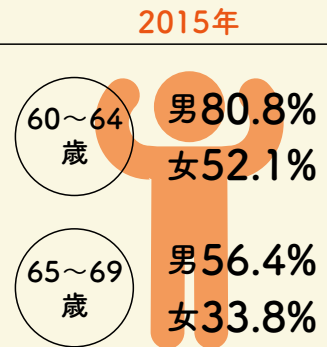
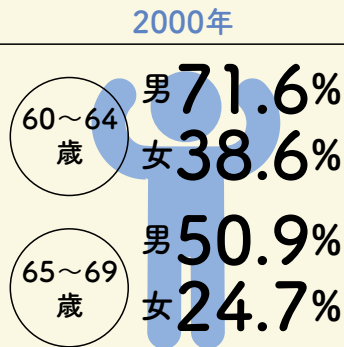


基礎データ

人口	1億2,692万6,000人
高齢化率	17.4%
75歳以上人口の割合	7.1%
平均寿命	男:77.7年 女:84.6年

60代労働力率

出典：総務省統計局「国勢調査」



60歳平均余命

出典：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2016」、厚生労働省「平成27年簡易生命表」



夫婦2人の標準的な年金月額

出典：厚生労働省「厚生労働白書」
夫が平均的収入で40年間就業し、妻がその期間すべて専業主婦であった世帯が年金を受け取り始める場合の年金月額。
年金額は、毎年度、賃金や物価の変動等によって決定される。



60歳の2000年はこんな年

Japan [国内]

- ★2月、大阪府で太田房江が全国初の女性知事として就任した。
- ★4月1日、介護保険制度が始まる。
- ★4月2日、小渕恵三首相が脳梗塞を発症して緊急入院。3日後の4月5日、森喜朗内閣が成立した。小渕首相は5月14日に逝去した。
- ★森首相は就任早々失言を重ねて、急速に世論の支持を失う。11月21日に野党から提出された森

内閣に対する「不信任案」に、次期総裁有力候補でもあった加藤紘一が同調する動きを見せる一幕（加藤の乱）もあった。

- ★7月、大手百貨店の「そごう」が1兆8,700億円の負債を抱えて破綻した。
- ★10月、作家・田中康夫が長野県知事に当選。
- ★11月8日、日本赤軍の元最高幹部・重信房子が、潜伏中の大阪で逮捕された。

World [世界]

- ★3月、ポーランド出身のローマ教皇ヨハネ・パウロ2世は、他宗教・宗派との融和に努めた指導者であり、十字軍や中世以来の異端審問など、カトリック教会が行ってきた歴史上の誤りを認めた。
- ★3月26日、ロシアの大統領選挙で、KGB出身のプーチン大統領当選。
- ★6月、金大中韓国大統領は、北朝鮮に対して「太陽政策」という緊張緩和政策をとり、北朝鮮の金

正日と首脳会談、南北共同宣言を発表し、この年のノーベル平和賞を受賞している。

- ★同月18日、エチオピアとエリトリア間の国境紛争を終結させる和平合意が成立。
- ★12月、アメリカ大統領選挙でジョージ・W・ブッシュが勝利、第43代の大統領となり41代を務めた父と並んで、親子で大統領になった。

Culture / Trend [文化]

- ★7月8日、三宅島で大規模噴火が続き、9月には全島民に避難命令が出された。
- ★9月15日～10月1日、シドニー・オリンピック。柔道の田村亮子選手、女子マラソンの高橋尚子選手の金メダルをはじめ、日本勢は18個のメダルを獲得した。
- ★11月19日、イチローが日本人野手として初めて、米大リーグのシアトル・マリナーズと契約。
- ★新500円硬貨と、西暦2000年を記念した2,000円札が発行された。

本:『ハリーポッター 賢者の石』(J.K.ローリング)、
『話を聞かない男、地図が読めない女』(アラン・ピーズ、パーバラ・ピース著、藤井留美訳)

漫画・アニメ:『犬夜叉』(高橋留美子)、『JIN-仁』(村上もとか)、『ハチミツとクローバー』(羽海野チカ)
映画:『劇場版ポケットモンスター』、『ホワイト・アウト』、『どら平太』(邦画)、『ミッションインポッシブル2』、『ジャンヌ・ダルク』(洋画)
流行歌:『TSUNAMI』(サザンオールスターズ)、
『桜坂』(福山雅治)



豆腐の値段
115円

75歳のころ

2015年
[平成27]



基礎データ

人口	1億2,710万3,000人
高齢化率	26.8%
75歳以上人口の割合	13.0%
平均寿命	男：80.8年
	女：87.1年

1940年生まれの著名人 [五十音順・故人含む]

浅丘ルリ子 [女優]	ジョン・レノン [ミュージシャン]
麻生太郎 [政治家]	大鵬幸喜 [相撲]
荒木経惟 [写真家]	立花隆 [ジャーナリスト]
アル・パチーノ [俳優]	津川雅彦 [俳優]
王貞治 [プロ野球選手・監督]	円谷幸吉 [陸上競技選手]
尾辻秀久 [政治家]	デヴィ・スカルノ [タレント]
加賀美幸子 [アナウンサー]	中山恭子 [政治家]
加藤一二三 [棋士 (将棋)]	中村敦夫 [俳優]
上村一夫 [漫画家]	ブルース・リー [俳優]
唐十郎 [劇作家]	ペレ [サッカー選手]
キャサリン・ロス [女優]	益川敏英 [物理学者]
篠山紀信 [写真家]	村松友視 [作家]
ジャック・ニクラウス [プロゴルファー]	リンゴ・スター [ミュージシャン]

出典

[p6～7]

人口：(総人口、65歳以上人口の割合、75歳以上人口・割合) 総務省統計局「人口推計」

世帯の人数：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2016」、総務省統計局「平成 27 年国勢調査」

平均寿命：厚生労働省「平成 27 年簡易生命表」(1940 年の数値のみ、1935～1936 年のデータ)

75歳まで生きる人の割合：厚生労働省「平成 27 年簡易生命表」

百寿者の人数：厚生労働省老健局「百歳高齢者に対する祝状及び記念品の贈呈について」

[p 8～17]

こんな年：岩波書店『日本史年表 (第四版)』 角川書店『日本史辞典 (第二版)』

Age
75

2章

75歳の暮らしぶり

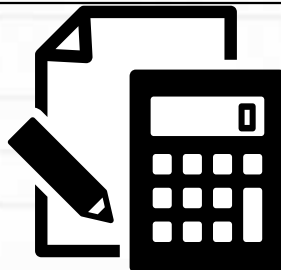


世帯のフトコロ具合は？

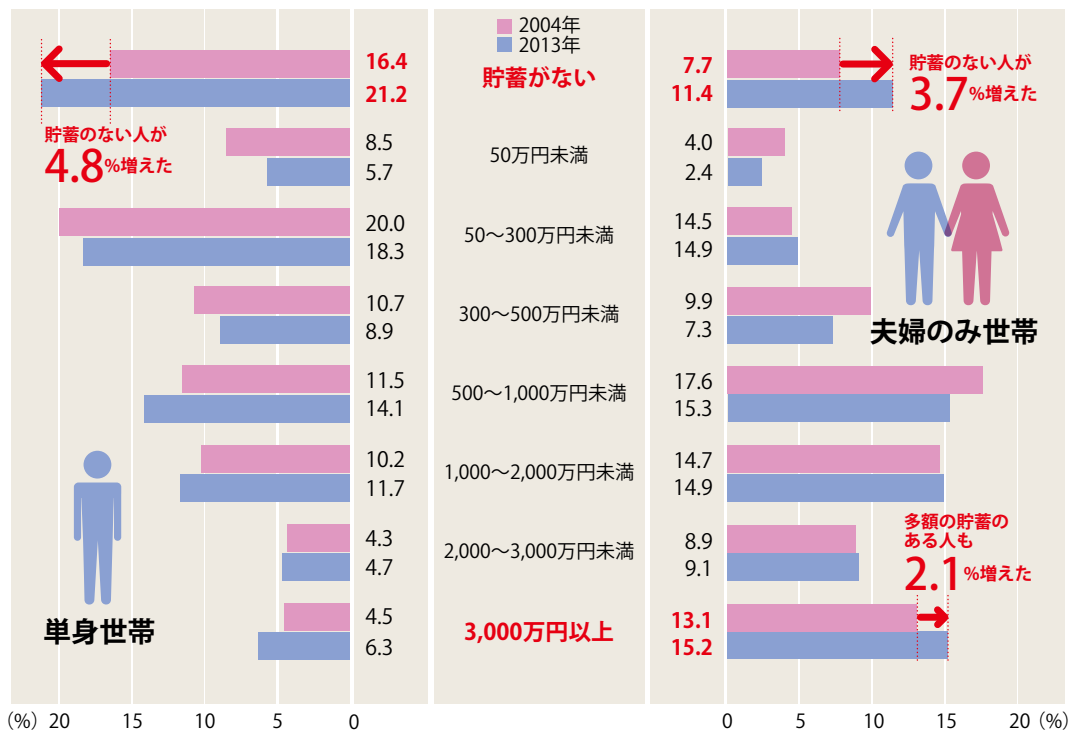
75歳以上が世帯主になっている世帯のうち、一人暮らしの世帯（単身世帯）が36.3%、夫婦のみの世帯が33.3%になっていて、合わせるとほぼ7割になります。

1か月の家計の収入と支出〔世帯主が75歳以上で無職〕（2015年平均）

世帯人員（人）		2.36
	18歳未満	0.04
	65歳以上	1.88
	65歳以上のうち無職	1.84
収入（円）		210,285
	うち公的年金給付	185,147
支出（円）		255,830
生活費		227,266
	食料	63,227
	住居	16,383
	光熱・水道	21,939
	家具・家事用品	8,793
	被服及び履物	6,434
	保健医療	14,728
	交通・通信	21,751
	教育	275
	教養娯楽	22,084
	その他（こづかい、交際費、仕送り金、諸雑費）	51,651
税・社会保険料など		28,565
	直接税	11,936
	社会保険料	16,594
	公的年金保険料	1,248
	健康保険料	9,384
	介護保険料	5,933
	他の社会保険料	28
	その他	34
収支（円）		-45,545
エンゲル係数（%）		27.8



貯蓄の額 [世帯主が75歳以上]



借入の額 [世帯主が75歳以上] (2013年)

借入額は「ない」 (%)	
2007年	2013年
81.8	75.4

家を持っている割合 (2013年) (%)

家計を主に支える者の年齢階層	持ち家率
25歳未満	3.4
25～29歳	11.3
30～39	37.6
40～49	59.6
50～59	71.7
60～74	79.3
75歳以上	81.7%

コラム: 貯蓄は何のため?

75～79歳の方の貯蓄の目的として一番多いのが、「病気や介護が必要になった時など、万一の場合の備えのため」で、64.1%と断トツです。次が「普通の生活を維持するため」(15.2%)です。一方、「より豊かな生活や趣味にあった暮らしを送るため」(3.5%)や「旅行や大きな買い物をするため」(2.9%)といった回答は少数です。

ところで、世帯主が75歳以上の世帯では、平均で約1,300万円の貯蓄があります。「え! みんなそんなに貯めてるの?」……実は、高額な貯蓄をしている世帯が平均額を押し上げています。貯蓄の少ない世帯から順に並べて全体の真ん中になる世帯(中央値)は、貯蓄額「400万円から500万円」です。こっちの方が「平均」よりも実感に近いかもしれませんね。

※データ出典: 内閣府「平成23年高齢者の経済生活に関する意識調査」
厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」

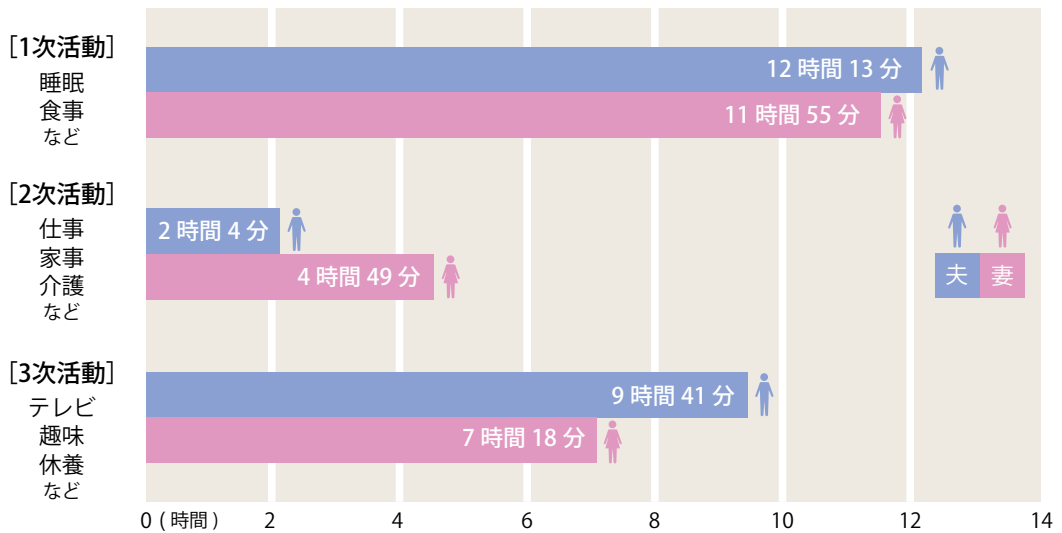


どんな毎日を送っているのだろう。

起きる時間・寝る時間と食事の時間 [75歳以上] (2015年)



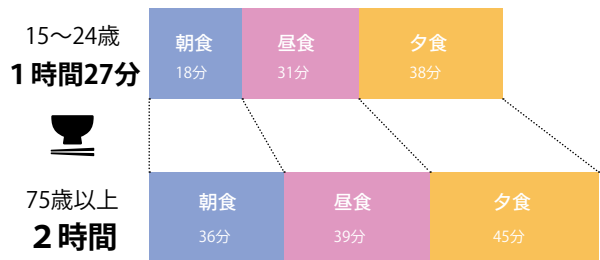
1日の行動時間 [75歳以上・総平均時間] (2011年)



食事にかかる時間 [総平均時間] (2011年)

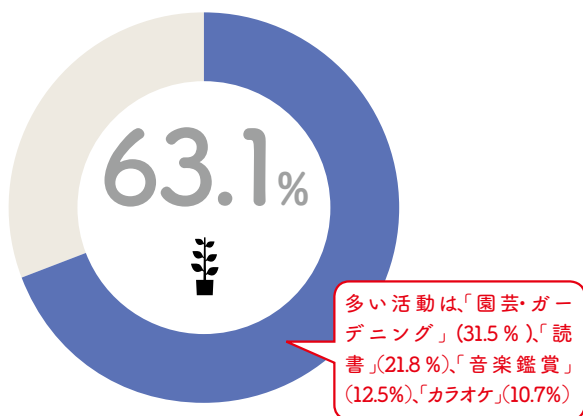
	(分)		
	朝食	昼食	夕食
15～24歳	18	31	38
25～34歳	19	33	43
35～44歳	22	34	43
45～54歳	22	33	43
55～64歳	28	34	45
65～74歳	31	36	45
75歳以上	36	39	45

75歳以上と15～24歳の食事にかかる時間の比較

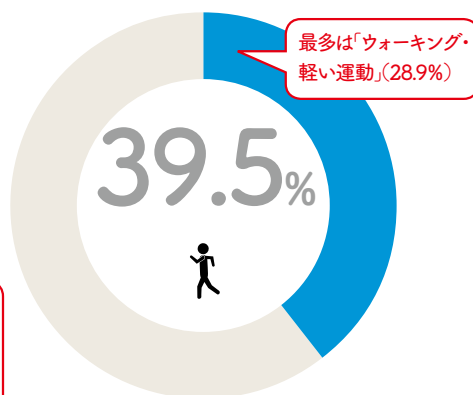


行っている活動 [75歳以上・複数回答] (2011年)

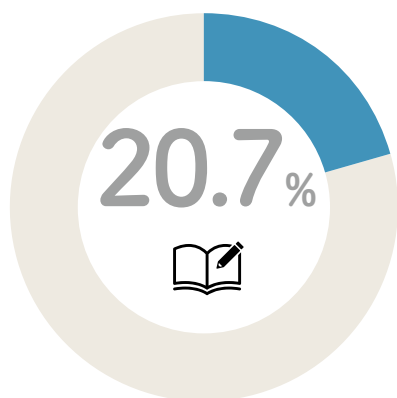
趣味・娯楽



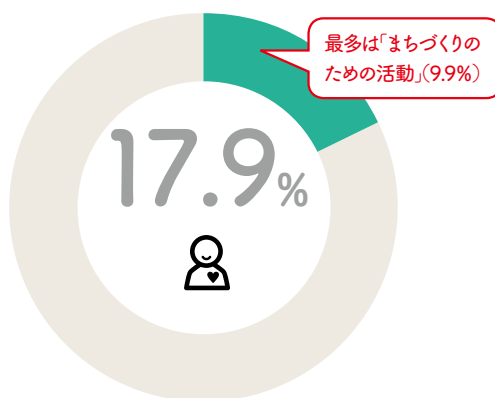
スポーツ



学習・自己啓発・訓練

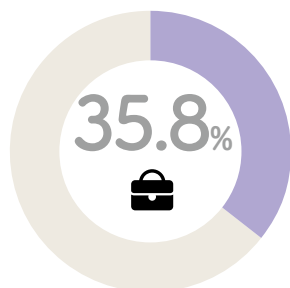


ボランティア活動

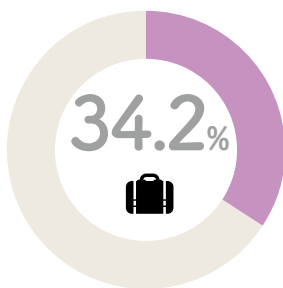


旅行・行楽

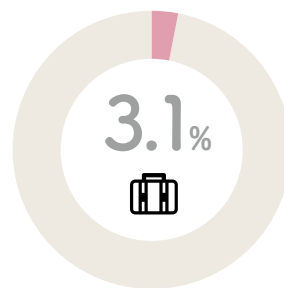
[日帰り]



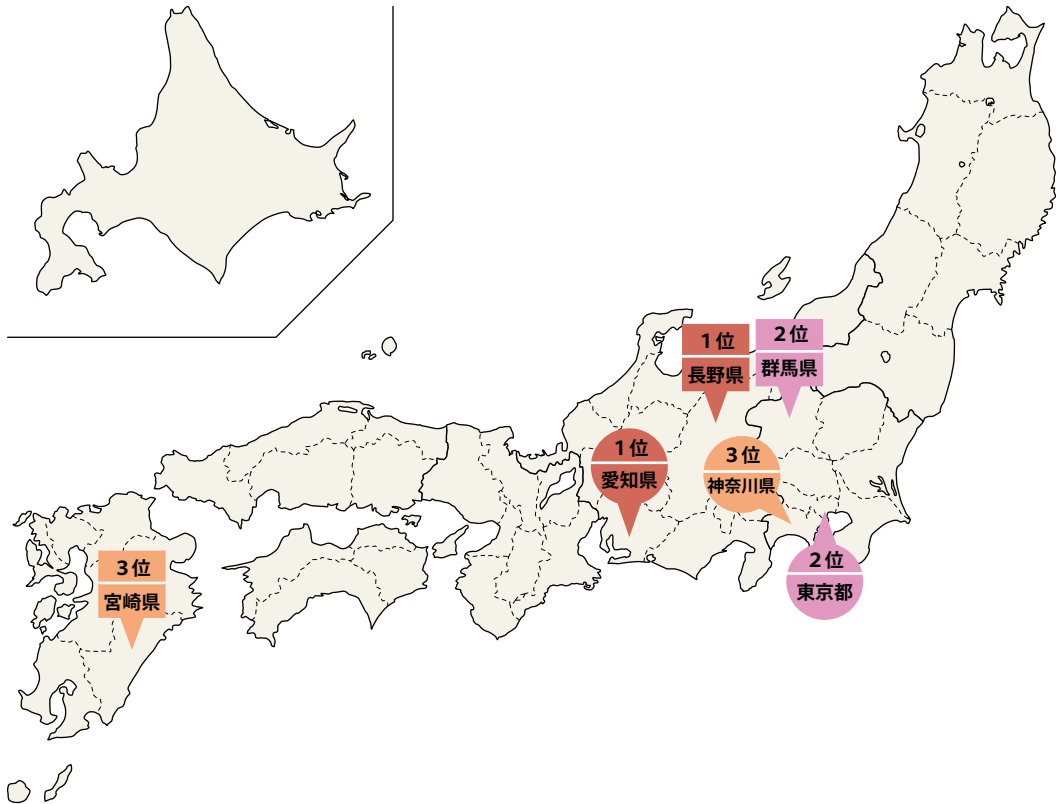
[国内1泊2日以上]



[海外]



75歳以上のドライバーの分布(2014年)



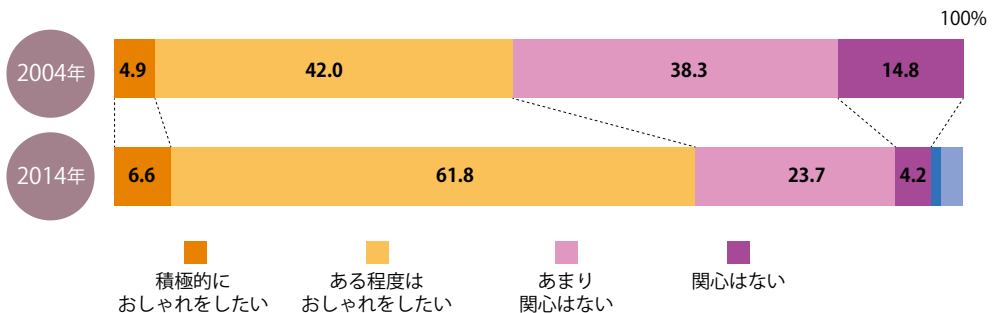
● 運転免許保有者数
[全国 447万4,463人]

■ 運転免許保有者の割合
[全国 28.1%]

1位	● 愛知県	263,296(人)
2位	● 東京都	239,841
3位	● 神奈川県	215,745
47位	● 鳥取県	27,072

1位	■ 長野県	39.3(%)
2位	■ 群馬県	38.8
3位	■ 宮崎県	37.5
47位	■ 東京都	16.7

おしゃれへの関心度 [75~79歳]



日常生活の主な情報源 [75～79歳・複数回答] (2014年)

テレビ	80.5(%)
新聞	65.9
家族	37.6
友人、近所の人	30.1
チラシ、折り込み広告、DMなど	22.2
ラジオ	13.9
インターネット、携帯電話	9.8

欲しい日常生活の情報ベスト3 [75～79歳・複数回答] (2014年)



コラム：まだまだ現役！

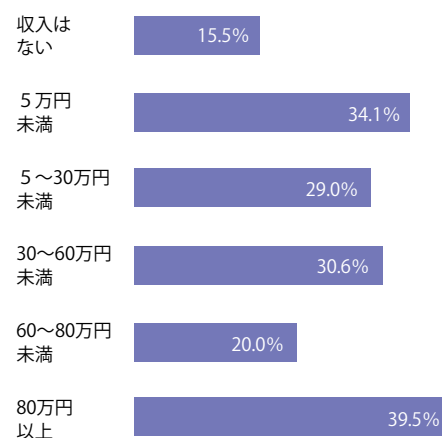
平均寿命が延びて、長い老後の過ごし方は人生の大きなテーマと言えるでしょう。いろいろな選択肢がありますが、「働く」ことについて見てみましょう。

「あなたは、何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいですか」という問いに対して、75～79歳では、実に男性の29.8%、女性の26.6%が「働けるうちはいつまでも」と回答しています。逆に「仕事をしたいとは思わない」という回答は、同じく男性で9.7%、女性で11.7%になっているので、「生涯現役志向」がかなり優勢です。

ちなみに、60歳以上全体で見ると、「働けるうちはいつまでも」という回答の比率は、必ずしも収入の多い・少ないとは関係していないことも分かっています。

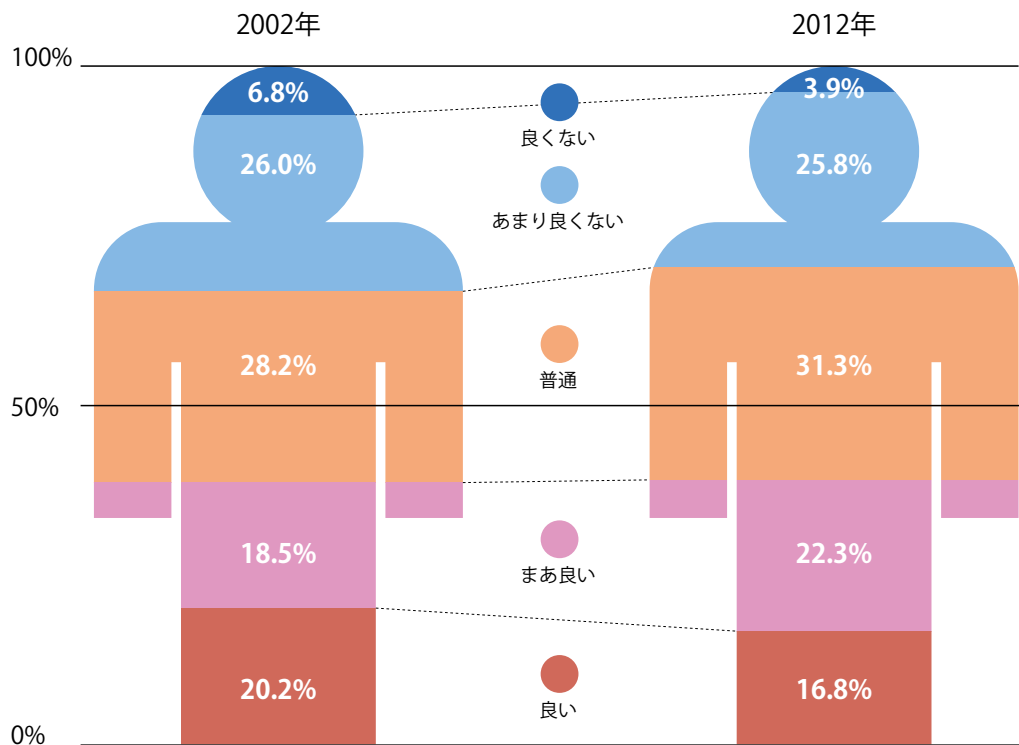
現在の収入階層別にみた

「働けるうちはいつまでも」働きたい人の比率 [60歳以上]

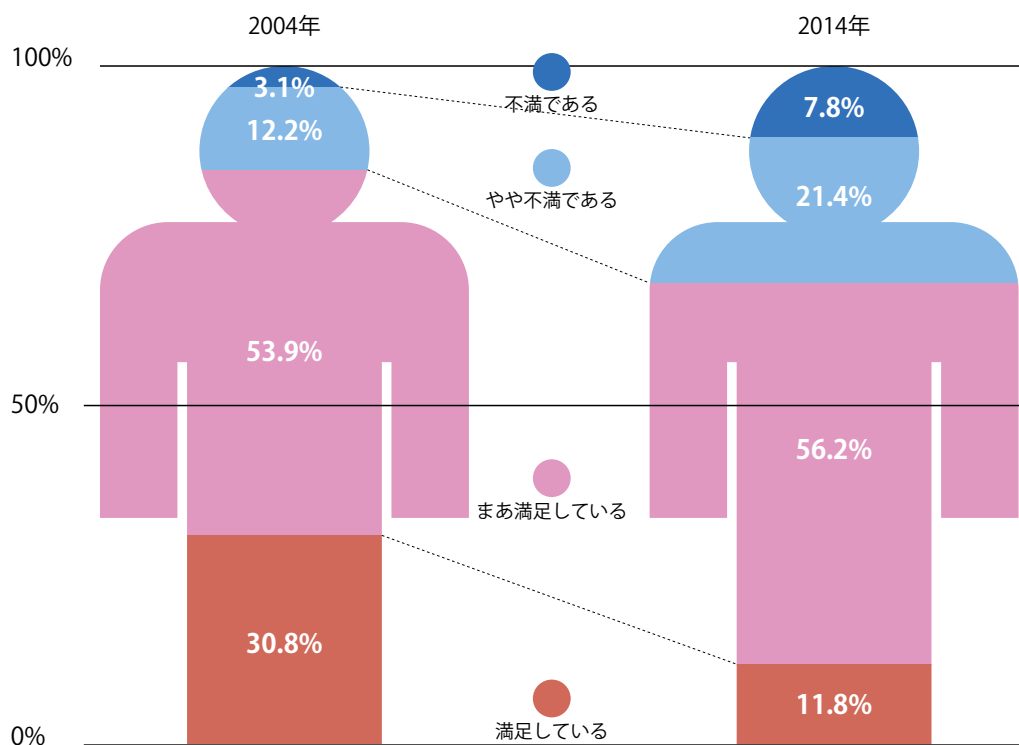


※データ出典：内閣府「平成26年度高齢者の日常生活に関する意識調査」

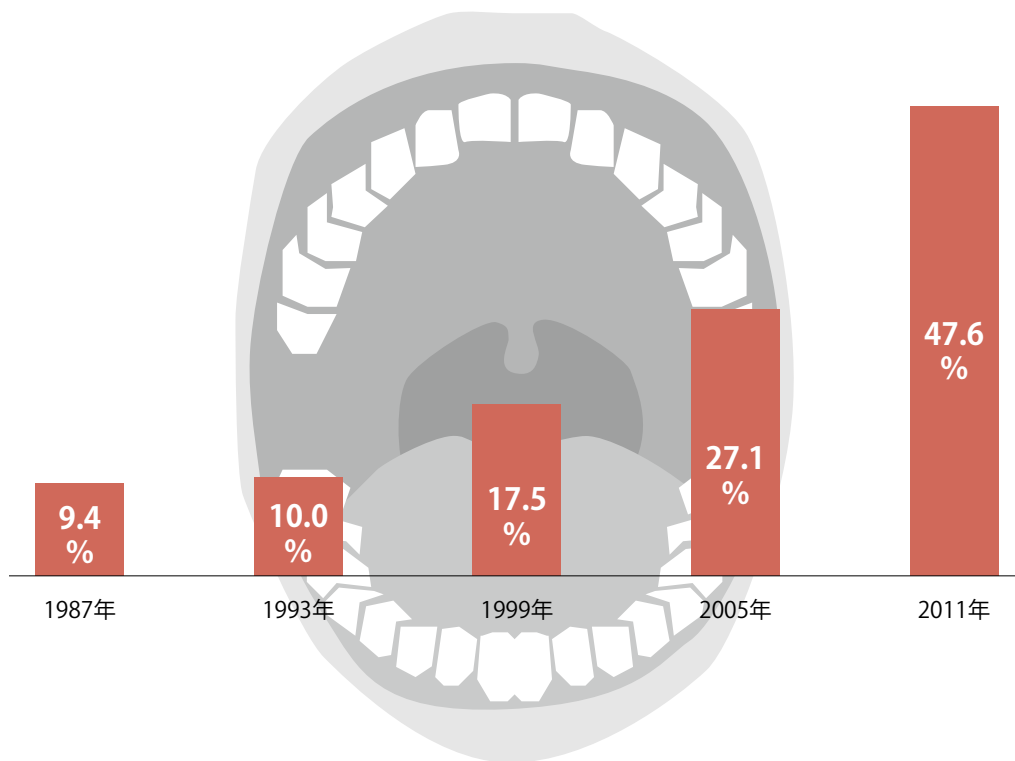
主観的健康観 [75~79歳]



日常生活満足度 [75~79歳]



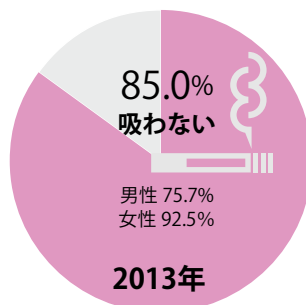
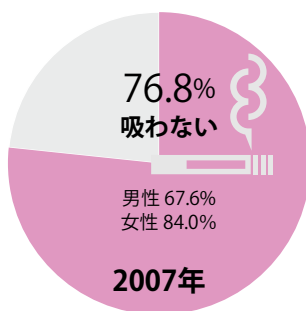
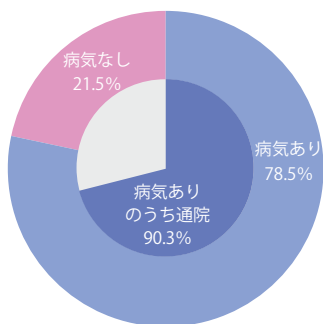
自分の歯が20本以上ある人の割合 [75~79歳]



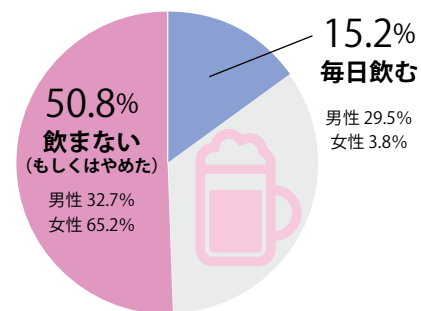
煙草を吸うか [75~79歳]

病気の有無と通院状況

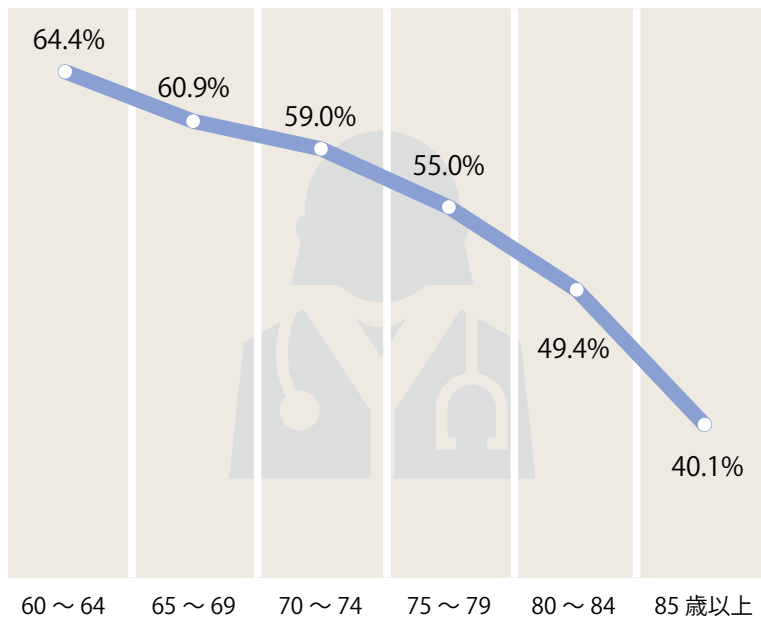
[75~79歳] (2015年)



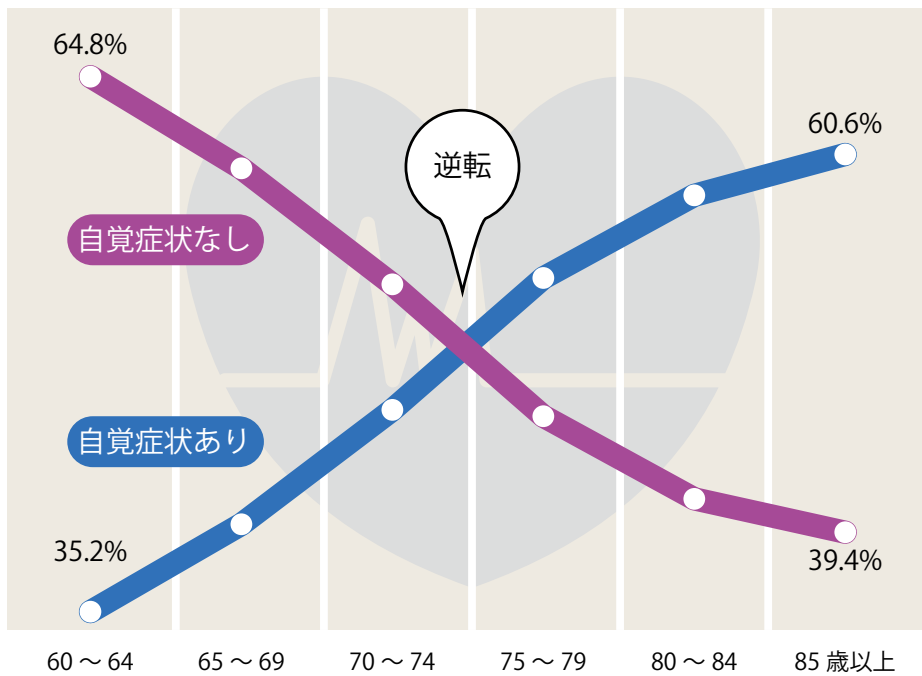
お酒を飲むか [75~79歳] (2013年)



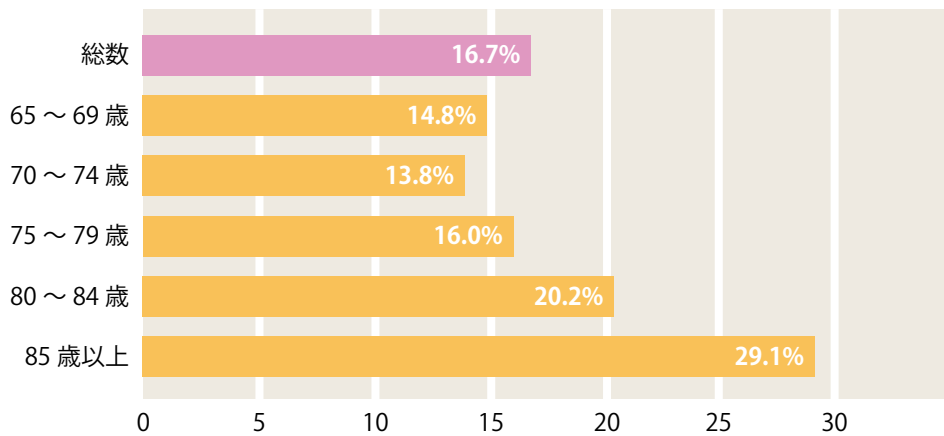
健康診断等を受けた人の割合(2013年)



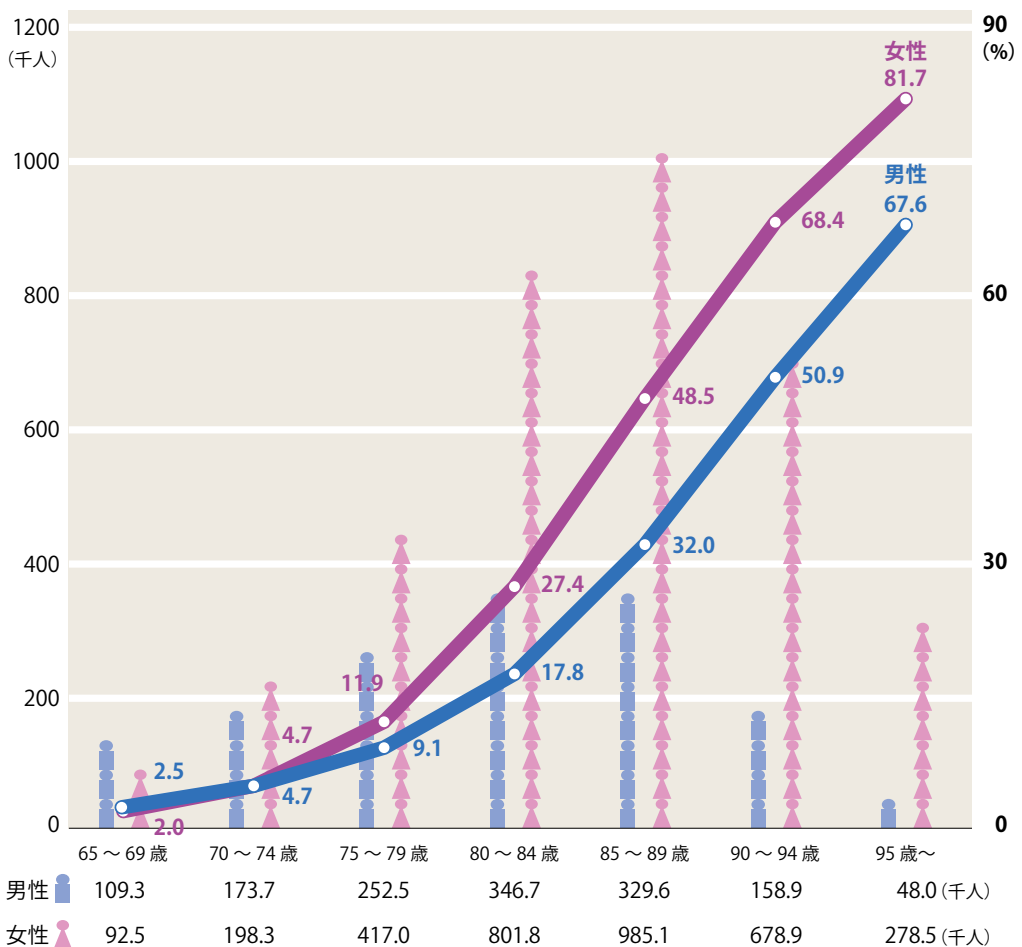
体の具合が悪いという自覚症状の有無 (2013年)



低栄養傾向[BMI20以下]の高齢者の割合 [65歳以上] (2015年)



介護保険受給者の人数と割合(2014年)





どのような最期を迎えるのだろうか。

体の不具合のうち、もっとも気になる症状トップ5 [75歳以上] (2013年)

- 1位 腰痛
- 2位 手足の関節が痛む
- 3位 手足の動きが悪い
- 4位 手足のしびれ
- 5位 物忘れをする

男女別疾病別にみた患者の数と割合トップ10 [75歳以上] (2014年)

男性	患者数(万人) 割合	順位	患者数(万人) 割合	女性
本態性高血圧 (明らかな原因疾患がない高血圧症)	143.7 23.5%	1位	268.5 27.4%	本態性高血圧 (明らかな原因疾患がない高血圧症)
インスリン非依存性糖尿病 (生活習慣などによって発症する糖尿病)	34.5 5.6%	2位	46.8 4.8%	関節症
前立腺肥大	27.1 4.4%	3位	44.1 4.5%	脊椎障害 (脊椎症を含む)
脊椎障害 (脊椎症を含む)	26.3 4.3%	4位	42.2 4.3%	高脂血症
歯の補てつ(入れ歯)	24.2 4.0%	5位	39.2 4.0%	歯肉炎及び歯周疾患
脳梗塞	23.7 3.9%	6位	35.7 3.6%	アルツハイマー病
歯肉炎及び歯周疾患	23.1 3.8%	7位	35.6 3.6%	インスリン非依存性糖尿病 (生活習慣などによって発症する糖尿病)
緑内障	17.2 2.8%	8位	33.0 3.4%	歯の補てつ(入れ歯)
白内障	16.6 2.7%	9位	31.2 3.2%	骨粗しょう症
狭心症	15.3 2.5%	10位	30.7 3.1%	脳梗塞

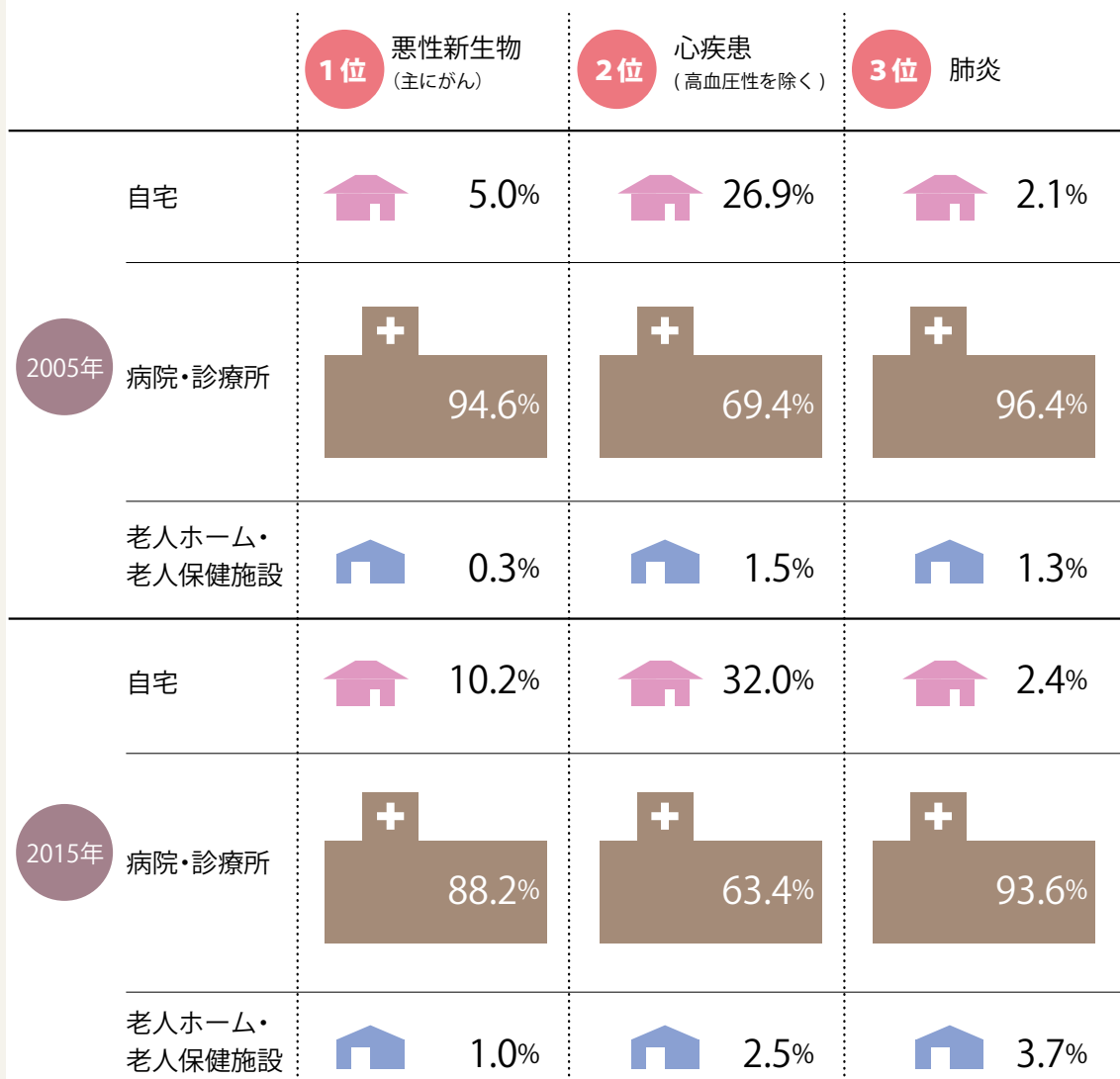
1人当たりの医療費 [75歳以上]

	2003年	2013年
医療費全体の年間推計額	31兆5,375億円	40兆610億円
75歳以上年間推計額	8兆6,154億円	14兆949億円
75歳以上の医療費の割合	27.3%	35.2%
75歳以上人口1人当たり国民医療費	81万6,800円	90万3,300円

主な死因 [75歳以上] (2015年)

1位	悪性新生物(主にがん)	23.2%
2位	心疾患(高血圧性を除く)	16.8%
3位	肺炎	11.5%

主な死因別にみた死亡場所 [65~79歳]



主な不慮の事故の種類別に見た死亡率 [65~79歳] (2015年)

浴槽内及び浴槽への
転落による溺死及び溺水

18.9%

転倒・転落

16.8%

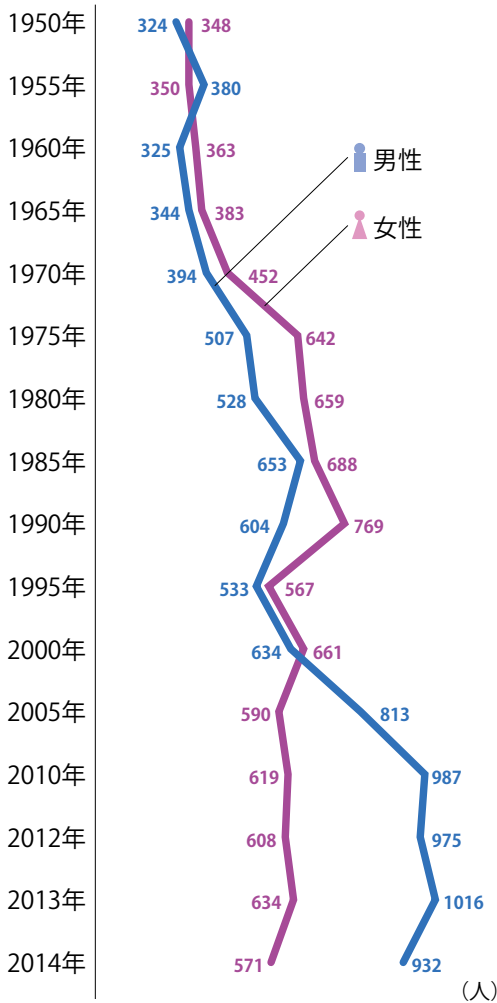
交通事故

16.4%

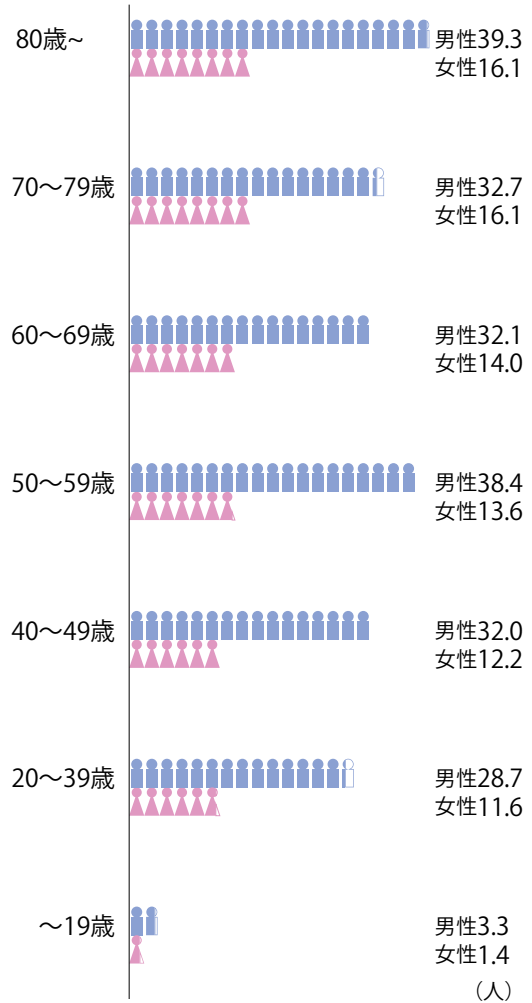
食べ物をのどに詰まらせる
ことによる窒息

11.8%

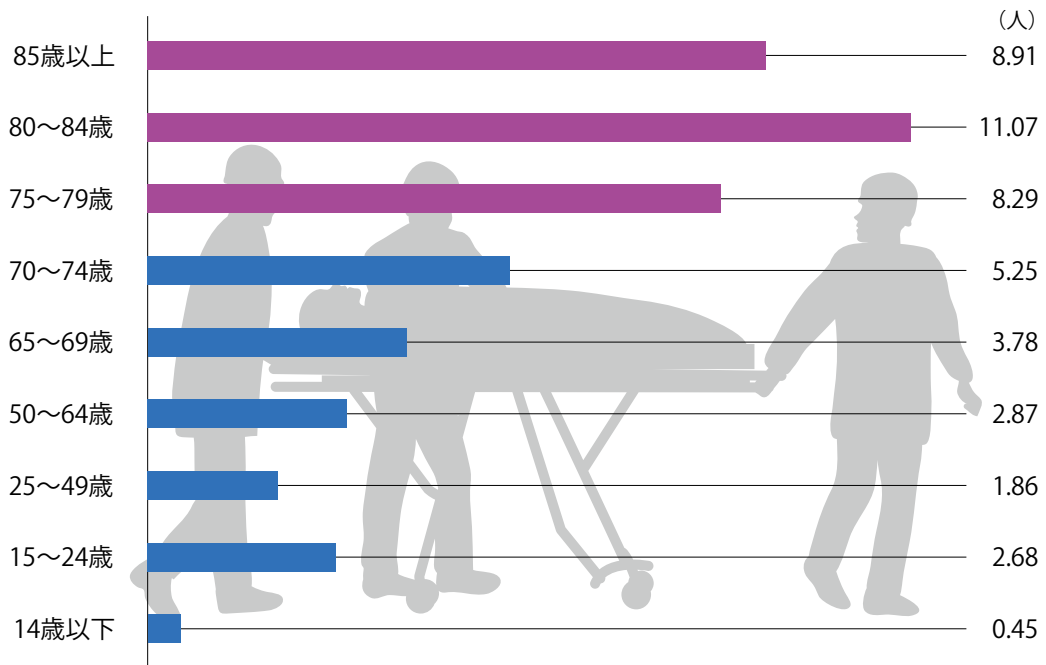
自殺者数の推移 [75~79歳] (2014年)



年齢別自殺死亡者数 [人口10万人当たり] (2014年)

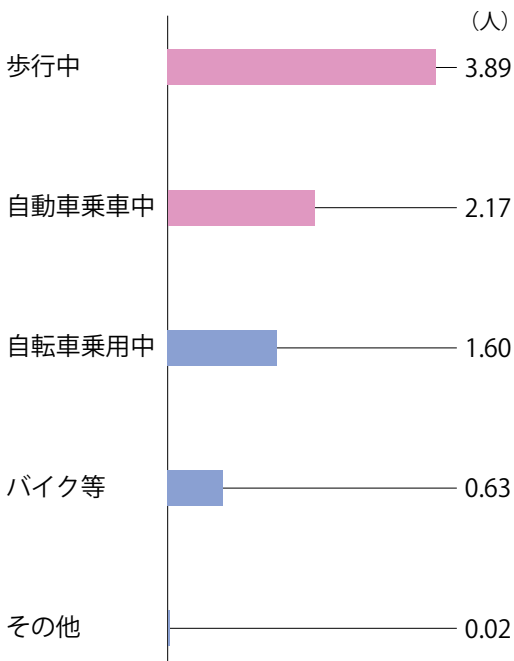


交通事故死亡者数〔人口10万人当たり〕(2015年)



状態別交通事故死亡者数

〔75～79歳・人口10万人当たり〕(2015年)



コラム：高齢者の交通事故と運転免許

人口10万人当たりの交通事故死亡者数は75歳以上になると大きく増加し、これを状態別で見ると「歩行中」の次に多いのが「自動車乗車中」です。ニュースでも高齢ドライバーの事故をよく目にしますね。

2017年3月12日から免許制度が変わったのをご存知ですか？ 75歳以上の方は、更新時のほか、認知機能の低下で起こしやすい違反（信号無視など18種類）をした場合も、**認知機能検査**が必要になります。その結果、**認知症のおそれがある場合は、臨時の適性検査を受けるか、医師の診断書**を提出する必要があります。認知症と診断されると免許は取消か停止になります。

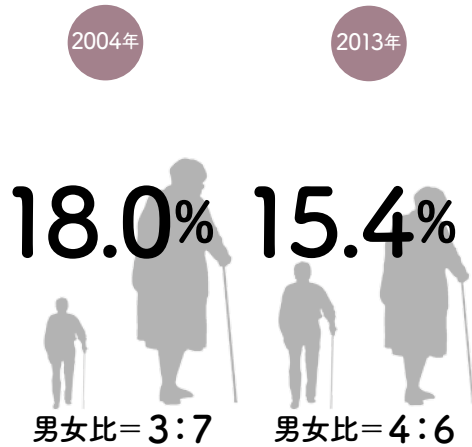
ちなみに、自治体によっては、免許を自主返納した方のためにバスやタクシーの割引制度があるので、調べてみるといいですね。

※参考資料：警視庁ホームページ
http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/menkyo/koshu/koureisha_anzen.html

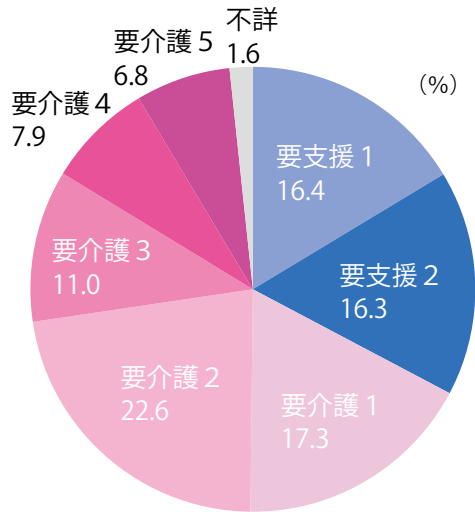
介護

介護を巡る現状はどうだろう。

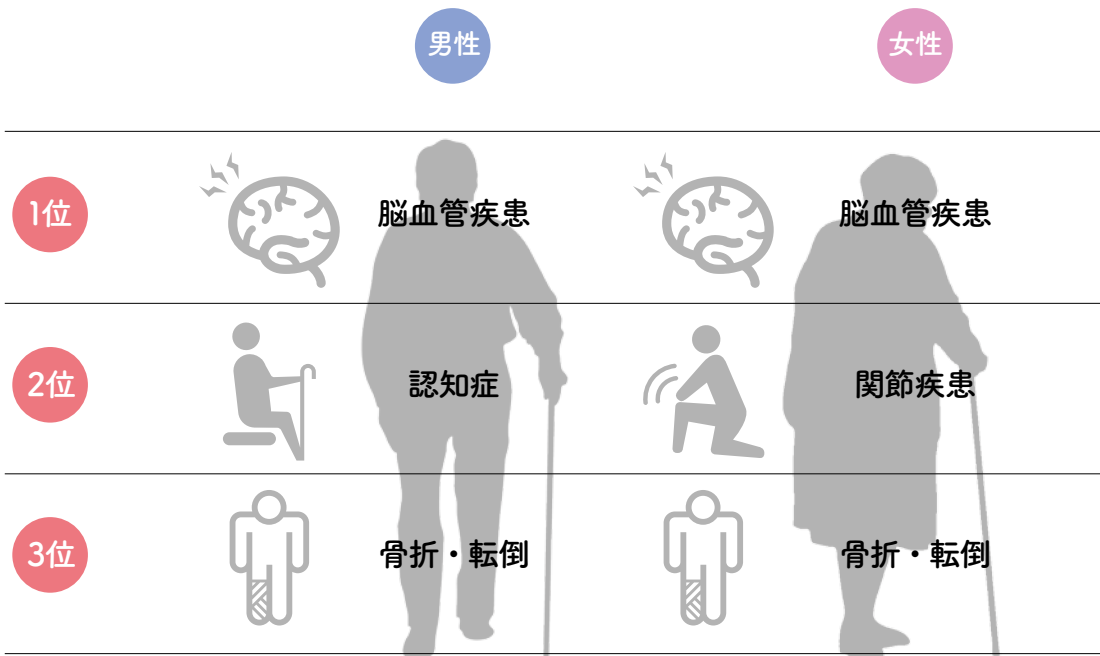
介護が必要な人の割合 [75~79歳]





介護が必要な人の介護度の状況 [75~79歳] (2013年)



介護が必要となった主な原因 [75~79歳] (2013年)



介護が必要な人の1年間の介護度の変化 [75~79歳]

	2007年	2013年
変化なし 	51.0%	58.4%
重くなった 	30.4%	25.6%
軽くなった 	12.3%	10.8%

介護保険サービスを利用しない理由 [75~79歳・複数回答]

	2004年	2013年	
介護が必要な人(本人)	家族介護でなんとかやっていた	37.7%	49.4%
	自分でなんとかやっていた	63.9%	44.5%
主に介護をしている人	家族介護でなんとかやっていた	62.0%	49.1%
	介護が必要な人(本人)でなんとかやっていた	18.5%	16.3%

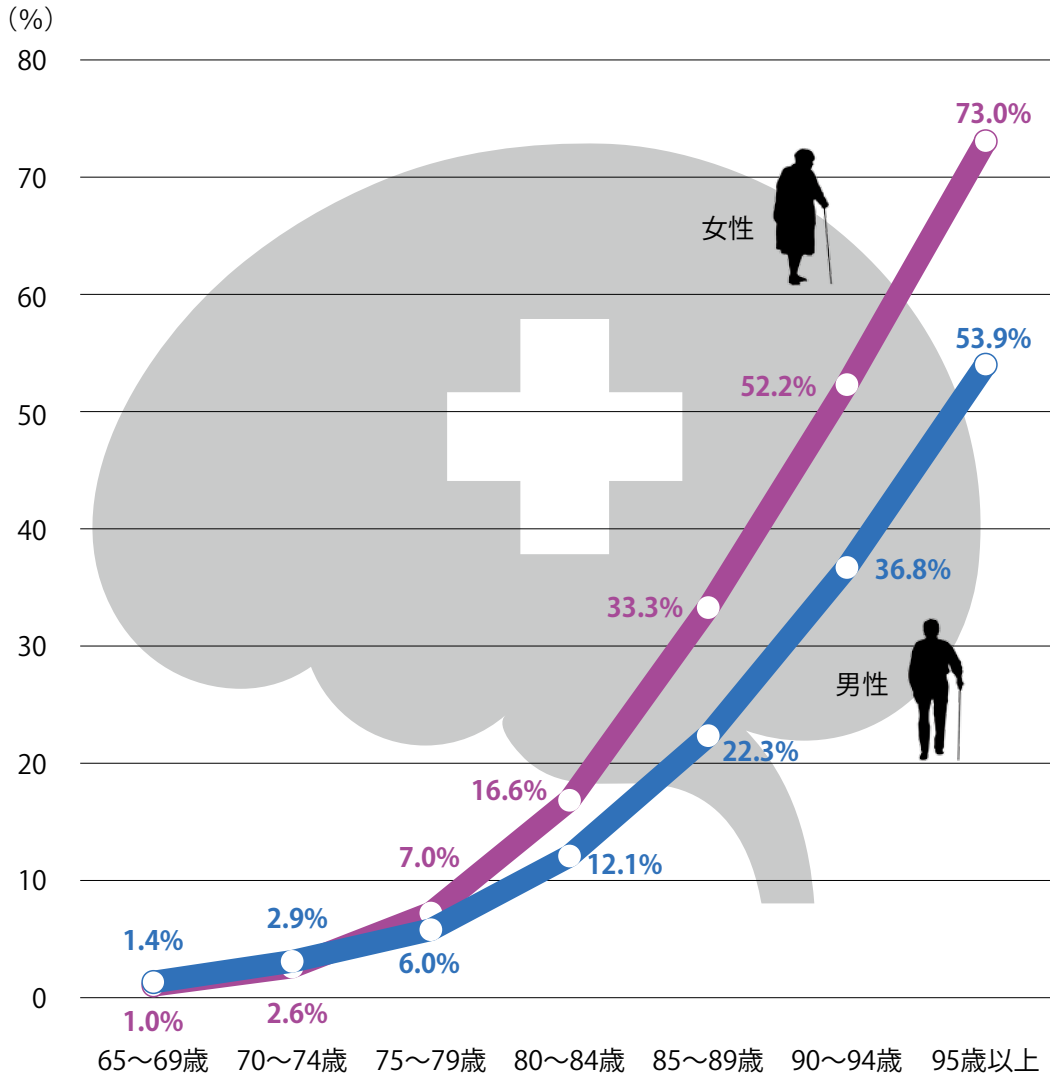
介護費用の負担 [75~79歳・複数回答]

	2013年
介護が必要な人(あるいは配偶者)の収入(年金)を充てた	76.6%
介護が必要な人(あるいは配偶者)の貯蓄を充てた	10.0%
介護が必要な人(あるいは配偶者)以外の収入・貯蓄を充てた	10.3%

介護が必要な人(本人)の悩みやストレス [75~79歳・複数回答]

	2013年	
悩みやストレスあり	「生きがいに関すること」17.7%	64.6%
	「家族との人間関係」13.8%	
なし	20.6%	

認知症有病率(2010年)



コラム：認知症のいろいろな原因

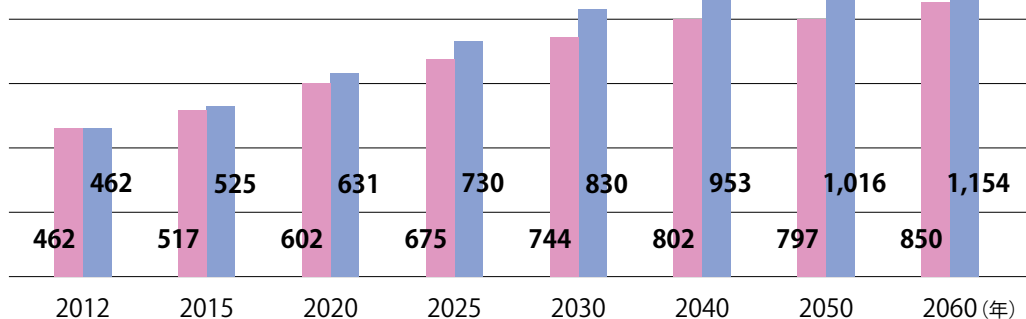
認知症は、「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、日常生活・社会生活を営めない状態」とされています。日本では、「アルツハイマー型」と「脳血管性」のものが多いと言われていますが、両者の混在も多く、はっきりしたことは分かっていません。アルツハイマー病の原因は不明ですが、「アミロイドβ」という物質が脳の神経に影響しているという考え方が主流です。脳血管性は、脳梗塞、脳出血などの病気で脳の神経がダメージを受けることによって発症します。

また、比較的良好に耳にするパーキンソン型、レビー小体型、前頭側頭型は、アルツハイマー型と同様の「変性疾患」のタイプで、認知機能に関係する神経細胞群が障害を受けて徐々に壊れていくものです。このほかにも、脳への外傷、感染症など、さまざまな病気が認知症の原因になります。

※参考資料：厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/kokoro/specialty/detail_recog.html

認知症高齢者数の将来推計 [65歳以上] (2014年)

血糖値の高い人は認知症になるリスクが高いといわれています。
そのため、糖尿病の人が増えると、認知症の人も増える傾向にあります。

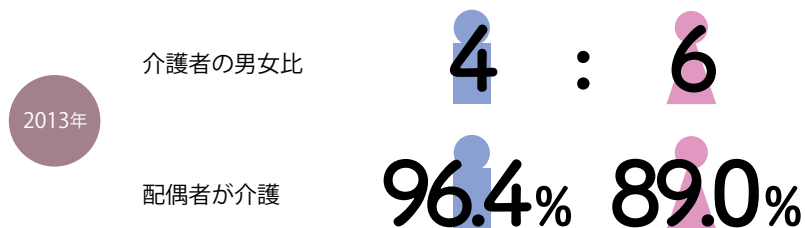


■ 各年齢の認知症の有病率が一定の場合の将来推計 (万人)

■ 糖尿病有病率の増加により、各年齢の認知症有病率が上昇すると仮定した場合の将来推計 (万人)

介護をする人の続柄と健康状態

①同居する主な介護者の要介護者との続柄 (75歳以上)



②同居する主な介護者の健康状態 (70～79歳)

	よい	まあまあ	ふつう	あまりよくない	よくない
2004年	8.2%	14.7%	39.1%	21.7%	3.1%
2013年	9.1%	9.4%	49.6%	23.7%	3.4%

出典〔2章〕

厚生労働省「国民生活基礎調査」「歯科疾患実態調査」「国民健康・栄養調査」「介護給付費実態調査」「患者調査」「国民医療費調査」「人口動態調査」「自殺対策白書」「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の概要（参考資料7）」

総務省「住宅土地統計調査」

総務省統計局「社会生活基本調査」「推計人口」

内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」「高齢者の日常生活に関する意識調査」「高齢者の健康に関する意識調査」

警察庁「運転免許統計」「交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」

なお、金額や年齢区分については、一部改変したものもある（p21,25,33）

Age
75

3章

75歳の国際比較

家庭

世界と比べて、日本の高齢者の家族や住宅の状況は？



婚姻状況 (%)

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
現在、配偶者あるいはパートナーと同居	64.9	48.5	48.9	45.8
健康・介護上の理由で別居中	0.6	2.5	-	-
別居あるいは離婚している	4.1	14.7	10.2	18.3
配偶者あるいはパートナーは、死亡している	28.1	28.2	33.6	27.5
結婚したことがない	2.3	6.1	5.1	8.4

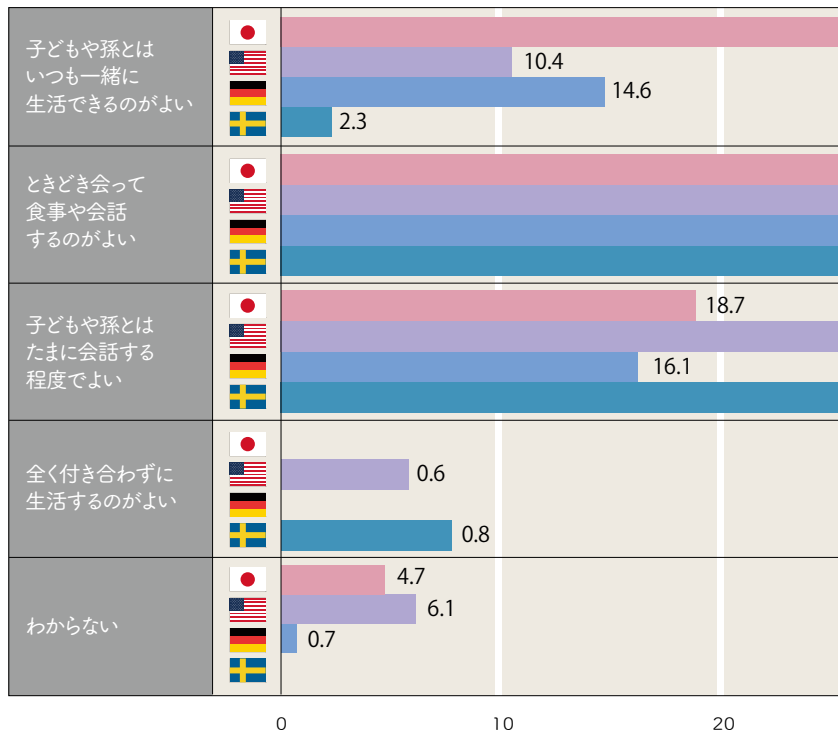
家族との同居状況 (%)

単身世帯	21.1	30.7	38.0	55.0
夫婦二人世帯	38.0	42.9	50.4	44.3
親と一緒に <small>本人(配偶者がいる場合を含む。)と親の世帯</small>	-	1.2	-	-
子と一緒に <small>本人と子(配偶者がいる場合を含む。)の世帯</small>	29.2	11.7	5.1	0.8
子・孫と一緒に <small>本人と子と孫(子、孫ともに配偶者がいる場合を含む。)の世帯</small>	10.5	8.0	-	-
その他	1.2	5.5	6.6	-

子と同居している割合は日本が圧倒的に多い

スウェーデンは単身世帯が半数以上

子や孫との付き合い方 (%)





住宅の種類 (%)

一戸建ての持ち家が多い

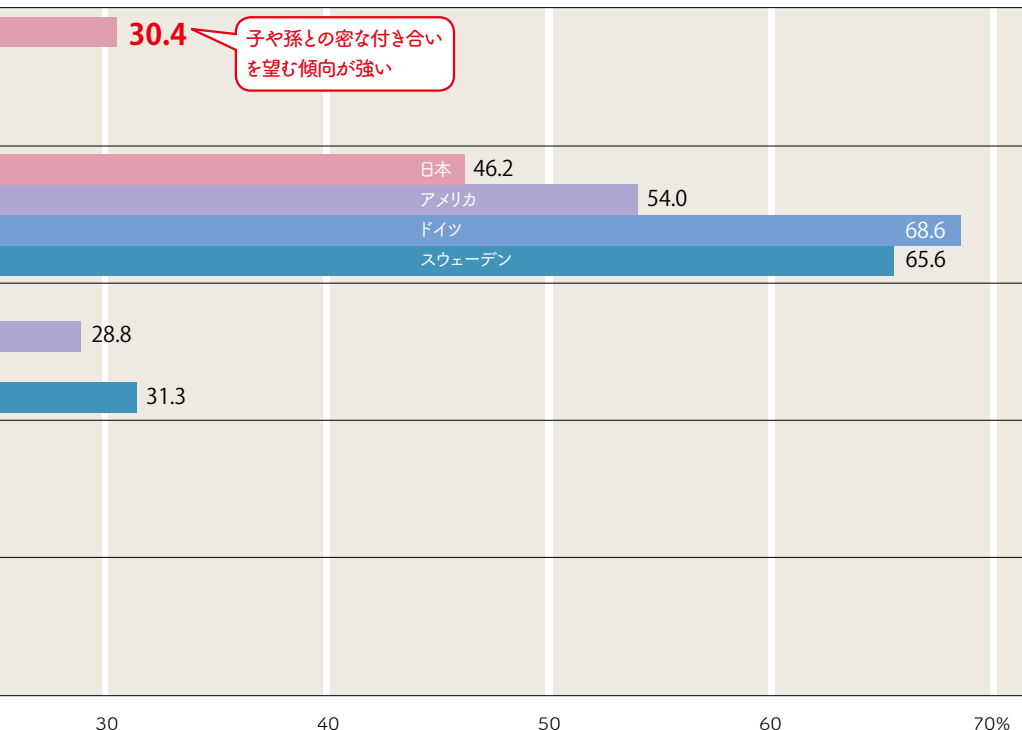
	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
持家（一戸建て）	81.3	68.1	36.5	29.8
持家（分譲マンション等の集合住宅）	4.7	6.1	20.4	42.0
賃貸住宅（一戸建て）	2.3	4.9	1.5	-
賃貸住宅（アパート、マンション、公営・公団等の集合住宅）	11.1	14.7	38.7	26.7
高齢者向け住宅・施設	0.6	2.5	2.2	0.8
その他	-	3.7	0.7	0.8

住宅の問題点ワースト3 (%) [複数回答]

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
ワースト1	住まいが古くなり、いたんでいる (14.6)	家賃・税金など住宅関連の経済的負担が重い (15.3)	住宅の構造や造りが使いにくい (14.6)	住宅の構造や造りが使いにくい (9.2)
ワースト2	住宅の構造や造りが使いにくい (7.0)	住宅が広すぎて管理が大変である (7.4)	台所・便所・浴室などの設備が使いにくい (8.8)	住宅が狭い (5.3)
ワースト3	住宅が広すぎて管理が大変である (6.4)	住宅が狭い (7.4) 同率2位	住宅が広すぎて管理が大変である (6.6)	家賃・税金など住宅関連の経済的負担が重い (4.6) 転居を迫られる心配がある (4.6) 同率3位

30.4

子や孫との密な付き合いを望む傾向が強い



暮らし

お金や人付き合いはどうだろう？



暮らしに困ることの有無 (%)

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
暮らしに困っていない (「あまり困っていない」、「困っていない」の合計)	74.2	70.6	80.3	89.3

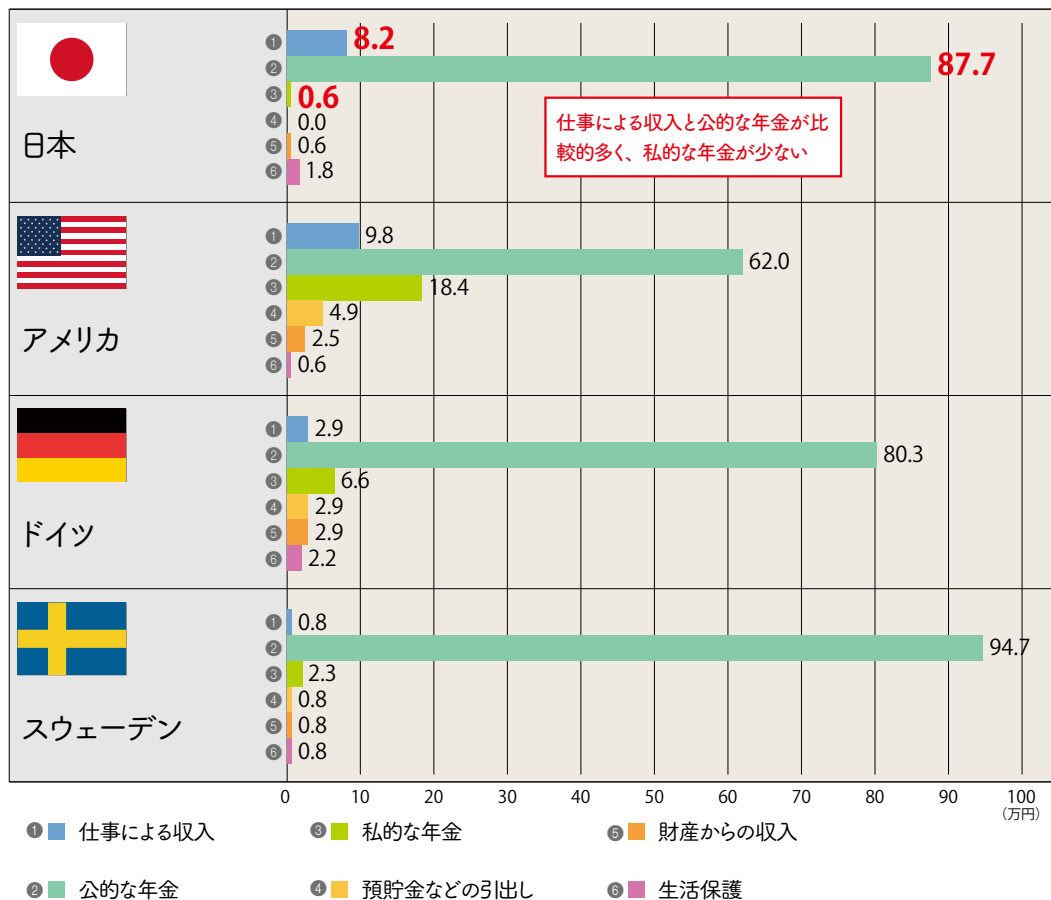
老後の備えとしての現在の貯蓄・資産の充足度 (%)

十分だと思う (「十分だと思う」、「まあ十分だと思う」の合計)	38.6	72.4	69.4	76.3
資産保有の必要性はない	2.3	1.2	15.3	9.2

十分と考える割合が低い

ドイツは不要とする割合が高い

生活の主な収入源 (%)



近所の人たちとの付き合い方 (%)



[複数回答]

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
お茶や食事を一緒にする	26.3	22.7	51.8	40.5
趣味をともにする	17.5	14.7	23.4	9.9
相談事があった時、相談したり、されたりする	21.6	23.9	45.3	32.1
家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	4.7	14.1	7.3	2.3
病気の時に助け合う	4.1	28.2	35.0	19.1
物をあげたりもらったりする	47.4	18.4	14.6	26.0
外でちょっと立ち話をする程度	66.7	49.1	32.1	90.8
その他	7.0	8.0	4.4	6.1
無回答	1.2	-	1.5	-

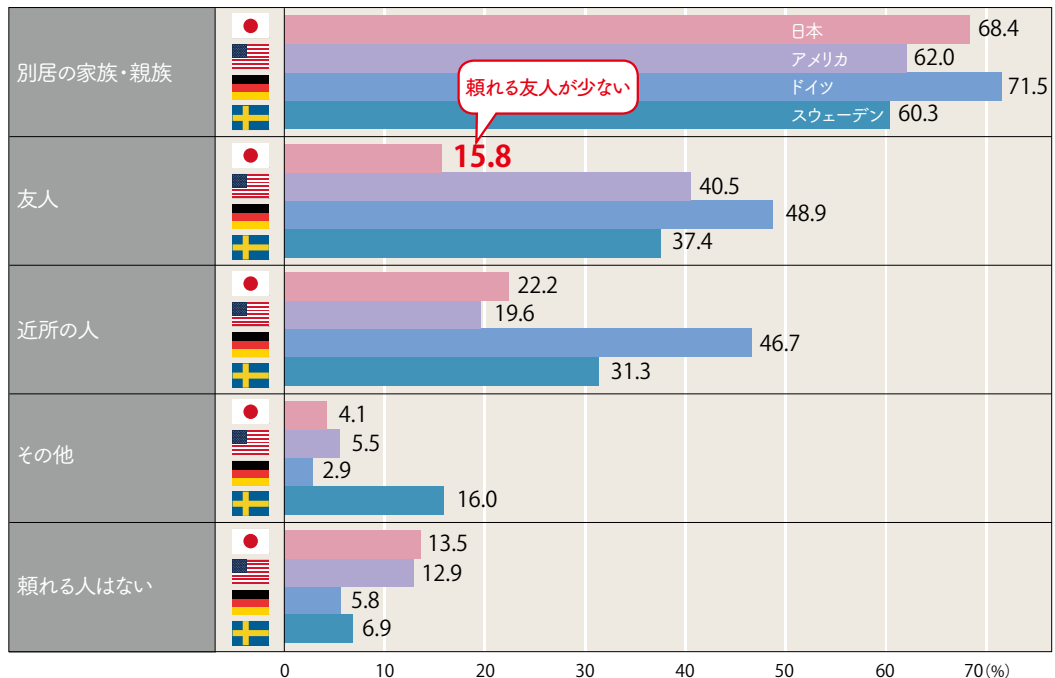
贈答の割合が多い

親しい友人の有無 (%)

同性の友人がいる	53.8	41.7	35.8	31.3
異性の友人がいる	-	3.7	2.9	2.3
同性・異性の両方の友人がいる	9.4	39.9	49.6	59.5
いずれもない	35.7	13.5	10.2	6.9
わからない	1.2	1.2	1.5	-
無回答	-	-	-	-

親しい友人が少ない割合が高い

同居の家族以外に頼れる人 (%)



頼れる友人が少ない

ボランティア活動への参加状況(%) [複数回答]

参加割合が高い活動
内容には国ごとに特
徴がある



	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動	14.0	4.3	-	12.2
地域行事・まちづくり活動	12.3	23.9	3.6	20.6
環境保全・自然保護活動	3.5	1.2	2.2	8.4
交通安全や防犯・防災に関する活動	2.9	2.5	2.2	0.8
子どもや青少年の健全育成に関する活動	4.1	4.9	0.7	4.6
趣味やスポーツ、学習活動などの指導	5.8	1.2	2.2	9.9
高齢者や障害者の話し相手や身の回りの世話	6.4	6.7	3.6	20.6
医療機関や福祉施設での手伝い・支援活動	1.2	2.5	2.9	6.1
国際交流・国際支援活動	-	0.6	-	9.2
消費者活動	-	1.8	0.7	0.8
宗教・政治活動	2.9	30.1	5.1	8.4
自分の趣味や技能などを活かした支援活動	6.4	12.3	11.7	15.3
その他	2.3	10.4	2.2	12.2
以前は参加、今は参加していない	20.5	18.4	28.5	15.3
まったく参加したことがない	46.8	23.9	44.5	26.7

ボランティア活動に参加しない理由トップ3(%) [複数回答]

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
1位	健康上の理由、体力に自信がない (32.2)	他にやりたいことがある (34.8)	関心がない (44.0)	健康上の理由、体力に自信がない (32.7)
2位	時間的・精神的ゆとりがない (21.7)	関心がない (33.3)	健康上の理由、体力に自信がない (23.0)	他にやりたいことがある (23.6)
3位	やりたいと思う活動が見つからない (13.9)	やりたいと思う活動が見つからない (21.7)	他にやりたいことがある (21.0)	家族の介護をしている (20.0)

悩みやストレスの有無(%)

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
大いにある	7.6	6.1	12.4	4.6
少しはある	40.9	42.3	59.1	35.1
まったくない	51.5	51.5	28.5	60.3

生きがいと感じる時ベスト3 (%) [複数回答]



	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
Best 1	子どもや孫など家族との団らんの時	子どもや孫など家族との団らんの時	子どもや孫など家族との団らんの時	子どもや孫など家族との団らんの時
	48.5	69.3	75.9	83.2
Best 2	テレビを見たり、ラジオを聞いている時	友人や知人と食事、雑談している時	友人や知人と食事、雑談している時	友人や知人と食事、雑談している時
	45.0	50.9	61.3	74.8
Best 3	趣味に熱中している時	おいしい物を食べている時 同率2位	おいしい物を食べている時	他人から感謝された時
	42.7	50.9	56.2	63.4

生活の総合満足度（「満足している」、「まあ満足している」の合計）(%)







日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
88.8	95.7	93.5	98.5

健康

健康に対する意識の違いは？

現在の健康状態 (%)

	 日本	 アメリカ	 ドイツ	 スウェーデン
健康である	58.5	64.4	23.4	63.4
あまり健康とは言えないが、病気ではない	33.3	30.1	66.4	27.5
病気がちで、寝込むことがある	7.0	4.3	9.5	8.4
病気で、一日中寝込んでいる	1.2	1.2	-	0.8

健康のために地域の活動に参加する人の割合 (%)

ドイツやスウェーデンの約半分

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
	21.1	34.4	43.1	42.7

身体機能が低下した場合、どこに住みたいか (%)

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
現在のまま自宅に留まりたい	51.5	48.5	44.5	22.1
改築の上、自宅に留まりたい	12.3	32.5	37.2	49.6
自宅以外の場所に住まいを移したい (※)	28.7	12.2	16.7	23.7
その他	7.0	6.7	1.5	4.6

改築の希望は少なく自宅以外の希望が多い

※「子どもの住宅へ引っ越したい」「高齢者用の住宅へ引っ越したい」「老人ホームへ入居したい」「病院に入院したい」の合計

コラム：4か国の医療制度の比較

日本とドイツは、保険の仕組みを作り、主に保険料収入で医療費を賄う「社会保険方式」を採用しています。また、スウェーデンは、税金から医療費を賄っていて「税方式」と呼ばれます。いずれの方式も広く国民に医療を提供する公的な制度になっています。

一方、アメリカでは、公的な医療制度は、低所得者、高齢者、障害者など対象者が限定的で、他の多くの人たちは民間保険会社の商品に加入することになります。しかし、保険料を払う金銭的余裕がないなどの理由で、人口の15.7%（2011年）が民間保険に加入できない問題がありました。このため、民間保険への加入促進し、こうした状況を改善しようとしたのが「オバマケア」だったのです。

※参考文献：厚生労働省 2013年版、2015年版「海外情勢報告」

出典 [3章]

内閣府「平成27年度第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」

※調査対象は、4か国ともすべて75～79歳。

母数：日本171、アメリカ163、ドイツ137、スウェーデン131。

ただし、「ボランティア活動に参加しない理由トップ3」のみ、日本115、アメリカ69、ドイツ100、スウェーデン55。

監修

鈴木隆雄

桜美林大学老年学総合研究所所長 / 大学院教授

札幌医科大学卒業、東京大学大学院博士課程修了。札幌医科大学助教授、東京都老人総合研究所副所長、国立長寿医療研究センター研究所長を経て2015年より現職。著書に『超高齢社会の基礎知識』（講談社）、『骨からみた日本人—古病理学が語る歴史』（講談社学術文庫）、『今すぐチェック！ 健康の基準—病気の前ぶれは自分でわかる』（小学館）などがある。

監修・執筆

白川泰之

東北大学公共政策大学院教授

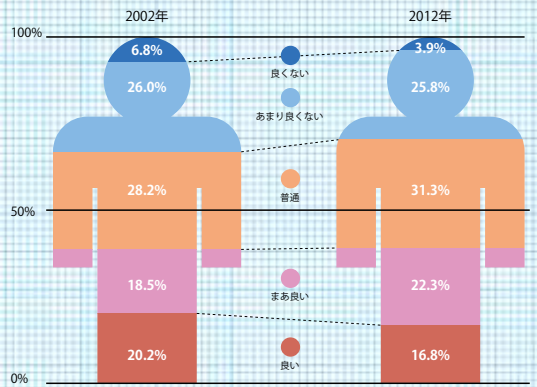
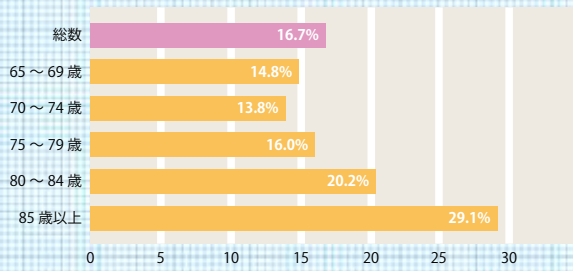
東京大学法学部卒業。厚生省（現・厚生労働省）入省。厚生労働省大臣官房厚生科学課長補佐、同人事課長補佐、社会・援護局援護課長補佐等を経て、新潟大学法学部准教授、医療経済研究機構研究主幹を務める。2015年8月より現職。著書に『空き家と生活支援でつくる「地域善隣事業」—「住まい」と連動した地域包括ケア』（中央法規出版）などがある。

われらニッポンの75歳 データにみるリアル

2017年5月31日発行

発行 ILC-Japan (国際長寿センター日本)
〒105-8446
東京都港区西新橋 3-3-1
西新橋TSビル6階
一般財団法人長寿社会開発センター
TEL 03-5470-6767
FAX 03-5470-6768
E-mail ilcjapan@mba.sphere.ne.jp
URL <http://www.ilcjapan.org/>

編集 株式会社青丹社
デザイン・DTP 大森デザインオフィス (大森裕二)
印刷 大日本印刷株式会社



2013年
介護者の男女比 **4 : 6**
配偶者が介護 **96.4%** **89.0%**

病名	患者数(千人)	割合	順位	患者数(千人)	割合	順位
本態性高血圧 (明らかに原因疾患がない高血圧症)	143.7	23.5%	1位	268.5	27.4%	1位
インスリン非依存性糖尿病 (生活習慣などによって発症する糖尿病)	34.5	5.6%	2位	46.8	4.8%	2位
前立腺肥大	27.1	4.4%	3位	44.1	4.5%	3位
脊性障害 (骨髄症を含む)	26.3	4.3%	4位	42.2	4.3%	4位
歯の補てつ(入れ歯)	24.2	4.0%	5位	39.2	4.0%	5位
脳梗塞	23.7	3.9%	6位	35.7	3.6%	6位
歯肉炎及び歯周疾患	23.1	3.8%	7位	35.6	3.6%	7位
膝内障	17.2	2.8%	8位	33.0	3.4%	8位
白内障	16.6	2.7%	9位	31.2	3.2%	9位
狭心症	15.3	2.5%	10位	30.7	3.1%	10位

